

つぎ見入大傳巻八終  
七八

~ 13  
3986  
1



門 へ13  
號 3986  
卷 1

南總里見八天傳第八輯卷之七



東都 曲亭主人編次

第十回 天機と談々 老獸舊洞を惜む  
蕉火と照して 勇僧猶穴不入

再說那癖者們の種平嶋平が撃ち出さ鐵炮の响はと俱に頭領とを不し松に乗  
な一人の矢庭小敷をせしき云這三箇の癖者の吐嗟とを駭慌て頭領を披  
まもり然らぬ船の倒しと扶けて引抗とせ程に連放被ける鐵炮又一一人敷  
付され一箇の丸那頭領に肩回を再敷を碎く勢に猶豫去くもあはれ殘は兩個の  
癖者の尸骸を不供うち捨る往方も知之逃亡けり小程に村長右衛門の三方繩種平  
們が二度まで皆用音高は鐵炮の暗號を錯金樹間より故老社伎們と共に登り  
來てかきく、大法師の身邊を接近着て縛の空を語り登時、大那癖者

昭和八年八月二十日寄  
原字三郎氏贈

らの縛の速箇様と有る隨小報知七那五個の癖者と過半汀渚小敷留た  
 二賊の逃て往方と知れ息絶きもあつた快々那首赴死活と看届けぬと  
 遠く先小立て件の汀渚赴く七獵戸種平嶋平の鐵炮を引提一走り着て  
 撃つ癖者們を此彼と檢き頭領と云ふ船の内身一人の胸背肩間を撃  
 てる窮所を息絶て流すも口より吐鮮血身浸れて終つ流すそ  
 中後小敷れ一人の膝即ちの三碎れま痛傷されま死る身と起えを掛  
 れれと種平を走り蒐と楚と押へ動せ嶋平も亦も修之腰小附る列卒  
 の二面と撃く細め背と酷く毆懲一敲に惱て來麻止向へ癖者苦痛不堪  
 志遂小招道あるや咱們今宵敷れる頭領と俱小五名長坂山頭を洞中  
 年來住る山客ふては頭領原修驗者我鴉蟬坊と喚做一初舊果在り  
 時好ぬ技と音と七地方小毒と流せり國守もえ捕捕られ緊系獄舎小

敷されと幻術と脱出て迹と那里不疎あら然に這鴉蟬坊毎小蜥蜴を養押  
 きてそとと竊小禱と云起り雨降を死日と要られも歌ま又隱形の術と  
 考形と隱を自由之因てある術と彼此雨と降とを村人と欺小神の祟ある  
 よと告示と酷く誑と許しの米錢衣と供物と倡備措と夜深これ奪  
 本口は是今宵のまこの村の献供物も五午以來受納と朝夕資用小あつた  
 と教誨と疑ひて祭る村あると又術とと村の女子醜がと奪略り犯て後  
 佳りもある或は左右侍らと愛妾小あつるもの村人れを知らざれ忽地小駭怖ま  
 ある神躲るありと遂小供物と準備と祭祀と真行せざるは咱們初我鴉蟬坊  
 術あると知れ小祭祀の夜母錢米と運合人足中央より知りて他  
 居る衣食不富る然も快樂の呈次一願ふ洞小留りて却下出る言と  
 火家四名雨と降し形と隱術を知り只頭領の隨意なりは法術至妙の老僧の命

運越不竭之狀那里人の存し悟之不意と敷れ西鏡の胸前三眉向之腦と破り骨と  
 摧れえらるるぞくれり又活くもあはれかとのいふ歎息をうせし大いなる冷笑ひて  
 酒家推査不錯とてこの悪僧の幻術賊情世未嘗有の奸悪は若くは如くある  
 下。我鳥蟬坊の始より件の洞小住を若くは原何処の何の比より下なる。この  
 が悪と資ける汝と共に四個の火家の名何と喚做したる具小報上甚麼をぞと問へる  
 種平嶋平も一入声と苛立快々京せの志と引提一鐵炮振抗て背と破と敵惱む  
 賊の堪む苦と叫ぶ声戦してや等あふ今何の何の隠るに我鳥蟬坊の當初今の洞  
 よの程遠くぬ谷陰に茶と締びて權且其処に在りければも人人家に近くとと竊の  
 所住に復せとを然而小可破吹革風九郎と喚做る一所不住の博徒と又敷れる這火  
 家ハ獲七と山客也。諱名と四更且半と喚れぬ又逃亡方兩個の火家ハ賽保輔  
 金山魔夫太と喚做まのでは皆是鳥許の同民也。身と措所なり一公這頭領の

てふ小屬で西三槍と靡せられも只這祭祀の獻供物と竊の洞を運容るも身の勢ふま  
 るの。這餘の悪事いふ願ふ大法衣の袖と掩て救をあかけり疲蹙を馬の  
 るて鉦と鼓と念佛と唱へ徐餘命を送るべしと哀げ小諄返り陪話する。此  
 かけ免這招道は村長右衛門三郎の餘の莊客獵戶種平嶋平們を呆れて目と目と合  
 まるの。感いへいも解きと、大いなるをさるる各那と听る欲這風九郎を招道  
 む。賊僧の伎倆發覺れられも尚もさうと説諦まらるるぞくれり。獨り酒家村長  
 許赴きて知兩老師の徒弟と名告て條々とらひつる。這賊あんと身とめて今宵必退治  
 去て人の迷いと醒さす。欲せ一間の方便を。酒家といふ日甲斐州石永道場と退院と  
 下野と投て赴く程に。這村を來つ折黄昏近き。宿と借らんと。村人の口  
 立る。一夕の宿と請ひか。皆強顔て美引事。情と原れ。大沼祭祀の供物の事  
 并に法師親巫と留り。一家主の話を初て詳く知る。因て。五介年

大沼堂  
 池の  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂  
 大沼堂

前大沼祭と村人の誣へて行脚の僧の幻術を以て奸賊の形のごふ村人を哄て供物を  
 竊むる今宵の正月の祭礼日まの例の如く銭と衣裳を藻外船から乗と備へる  
 とのふりやちやも備痛か然と六件の賊僧が衆人去て小夜深一比沼頭へ潛来  
 竊合するをみるに亮直も田舎見の愚直も那奸賊小魅され年来を歴  
 去るを疑ひ酒家這意衷を盡して明々地を論まも只先入を旨とて還て酒家と疑ひ  
 信用のゆるるべ。要とあれ深念とて却村長許討て思ひの随ふ護り一長は  
 這衆人も皆業引て些拒ぎ通て指揮に従ふ。汝達這門の賊僧亡きと知ると賊  
 僧并小小嘍囉此彼二名と滅す。酒家俗姓の金碗氏も法名と大といふ弱冠の比安  
 房の國守里見殿は仕る。小行儀のゆりれ。恥々祝髪入道とて関八州を履歷止の星  
 霜二十餘年小多る。神と偽り愚俗と説して民の財帛を掠奪る。這賊僧の徒衆  
 多る。今も此後甚摩を摩今宵酒家單身も這沼の邊に埋伏して是等の賊を

敷き捕るとか。そのあはれ。多き。憐れ。汝達の迷ひを醒ます。足は非如兇賊とてを  
 出家の命を断り五戒を破る。怖れあり。其の故。獨戸と。央とてを敷き捕る。夫外道を  
 祛けて正法を盛ふ。兇賊を退治して良民を濟度する。則如来の本願を成る。酒家一  
 身の関心事を好む。功を求て屠殺と旨と考つる。あはれ。其の美も亦多。那地獄天堂の  
 空談を宗として。衆生の與力を用ひ。僧を賣て銭を求る。凡僧と目とある。一年を  
 同くして語る。迷ひを醒めらる。と説諭せ。數萬にわ村長右衛門二以  
 下の莊客獨戸們を。初て夢の覚る。齊一地上に跪いて。俺們九眼明る。ね。慈悲。僧  
 大活佛の喜し。知る。多き。憐れ。か。此の期。及び。胸中。の。穢。な  
 り。疑ひ。な。悔。い。小。昨。非。小。省。れ。大。德。の。善。巧。方。便。也。出。没。不。測。の。妖。賊。を  
 瞬間に誅滅せられて。今。も。俺。村。の。利。益。多。く。永。代。不。易。の。大。功。德。と。何。の。時。も。忘。れ。ず。許  
 さる。南。無。阿。彌。陀。佛。彌。陀。佛。と。う。ち。陪。話。で。渴。仰。隨。喜。數。行。の。感。淚。坐。衣。領。現

濡きまふ伏拜し又額つくと、大い急小喚立して、既小賊首と獲られぬ。不逃亡と二  
 賊あり。芳草ちの根と送ると、再稲田の害をぬく。這風九郎と御導ふと、又那洞を赴  
 二賊と其首小獲せんと。故よ快々と遠くせ。大家有理と諾する。中より右の二  
 故老們ふち對して各々一二名快村を赴きて、御向還り。衆人不足の義を報知を  
 船多錢と衣裳皮籠と運び返さぬ。その餘、這里は居残りて、船に成るもよめれ。此  
 彼異議不及。現年考る。俺們的の洞小赴くとも、賊と捕捉する資助あり。さうもあ  
 然、這首より罷り還りて、熟睡とまけん。人々の門を敲き、おとす。おとす。おとす。  
 洞多る。支黨の言、在ん。秋料のむ。其頭の用心をぬかぬ。あつて、恭しく、大い  
 辞とせむもあ。這里小留るののあり。當下種平嶋平八風九郎すち對して、せれ。兇賊  
 なる。汝汝と肩小引。樞の案内。まき。欲を命惜く。去向と報。然、然、然。左右より  
 合、軀と掖立。社、校二名受捕。肩小掛け。足と持。金、倉人小熟。る。戦國の民とく

陳國より、小程、大法師の右、二并、お社客們と、揚戸と、從て、件の洞小赴く程、小  
 天と晴て、望月の光隈を、明る。風九郎と案内、小更、お岐道の迷い、お、お、お  
 半里餘の小、長阪山の頭、一條の岨路、小老、弱、杖と、參、樹木、回、る、お、お、お、  
 其、果、不、身、時、風九郎、声、を、かけて、那、首、の、小、山、の、半、腹、を、お、洞、を、お、  
 且、と、お、大家、左右、多く、杖、を、登、時、種、平、嶋、平、八、俱、お、持、し、る、鐵、炮、を、  
 反、ん、せ、程、お、洞、内、より、夫、婦、と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 ある、お、俺、們、の、賊、徒、お、わ、ん、年、來、汝、賊、徒、鳥、鱗、坊、お、這、所、栖、と、奪、れ、と、怨、腸、と、  
 素、素、より、綱、長、と、お、鳥、獸、と、厭、勝、せ、と、那、唐、山、を、黃、公、の、神、符、小、捷、る、お、段、お、  
 阿、定、々、々、と、お、毒、氣、を、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 明、查、ある、と、輒、く、仇、と、誅、滅、せ、れ、お、何、事、も、是、お、捷、を、死、初、の、お、お、お、  
 脱、れ、ぬ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
 賽、保、輔、金、山、魔、夫、太、お、お、進、退、と、決、難、と、云、云、と、お、お、お、お、  
 相、譚、ひ、と、心、の



風九郎

九郎平

大

大

大



二賊を趕ふ  
大  
老翁老波  
遇ふ

るく竊聞。然敵既。上。び。る。癖の趣も詳し。且件の両賊。那厭勝の術。申。す。口。い。
 是寛家の残黨。ある。俺。們。これ。を。殺。し。る。賊。徒。ハ。オ。カ。五。名。を。他。們。が。外。に。支。黨。を。洞。内。
 其の。ぬ。ら。ひ。の。合。せ。れ。り。一。女。子。們。と。金。錢。衣。裳。家。伏。の。も。快。々。入。て。さ。あ。か。と。よ。ま。大。家。亦。
 敬。篤。に。近。着。く。の。り。り。と。獨。大。此。由。騷。を。樹。粒。の。間。を。漏。る。月。を。燭。の。光。を。ほ。り。く。と。
 件。の。倉。と。媪。と。る。不。要。骨。の。様。の。う。と。張。る。八。十。の。齡。を。又。た。彼。頭。の。霜。を。戴。け。も。色。黒。く。ま。て。
 形。既。膊。云。訥。辯。ハ。七。引。声。を。身。更。海。松。の。如。く。極。無。ま。る。布。の。薄。黒。衣。を。被。り。よ。ふ。
 鹿。杖。と。推。し。へ。り。必。是。妖。怪。を。ん。と。必。ハ。位。と。立。對。ひ。て。や。老。牝。牡。何。ら。の。剛。才。若。們。が。説。
 ところ。の。扱。あ。る。不。似。れ。た。も。の。も。素。生。と。詳。し。せ。れ。ば。衆。人。怪。し。る。憶。小。是。若。們。の。狐。狸。
 飲。多。く。は。山。魅。木。精。の。属。る。ん。を。素。生。と。報。せ。り。と。の。れ。て。怕。る。老。翁。老。婆。の。杖。を。も。
 捨。脱。して。大。德。許。き。を。あ。か。既。ハ。明。查。せ。れ。如。く。俺。們。ハ。人。倫。を。三。百。年。來。這。洞。小。栖。
 なる。真。猫。で。い。和。名。の。素。と。り。み。の。一。字。也。猫。不。獸。也。ハ。も。面。狸。不。似。と。も。七。み。み。也。

喚ぶのもあり。這頭の俗に。真猫。性。鈍。け。れ。狐。狸。と。遊。び。ま。る。と。と。體。被。り。て。
 人を魅を。靈。も。る。形。肥。れ。も。く。と。邊。る。の。故。人。を。啖。ふ。豺。狼。の。悍。然。似。て。毎。小。穴。居。と。
 他。と。求。ね。園。圃。を。暴。を。稻。穀。と。竊。せ。可。も。多。く。不。可。も。多。く。の。と。と。大。ら。ち。听。て。原。來。
 老。翁。猫。で。あ。り。の。故。徒。穴。居。と。人。の。與。害。を。做。ま。る。と。の。身。更。相。心。が。皆。取。廣。大。
 る。洞。を。造。り。て。栖。る。故。小。妖。賊。の。奪。て。這。里。を。獨。り。と。あ。り。是。若。們。の。罪。を。今。も。他。所。
 程。一。酒。家。這。洞。を。伐。崩。ゆ。て。後。の。患。を。除。ん。と。責。懲。され。老。猫。の。詞。を。陳。せ。り。
 縁。故。と。知。召。ね。の。謹。責。ハ。然。り。と。多。く。這。洞。の。俺。們。が。穿。為。の。一。の。の。あ。る。此。ハ。目。是。大。古。古。
 墳。崩。て。洞。多。く。一。と。咱。們。が。所。栖。小。あ。る。目。今。埋。ま。る。も。是。よ。り。の。後。百。二。三。十。年。星。
 霜。と。麻。芳。小。及。人。畜。総。て。泰。平。の。聖。化。の。遇。る。故。ひ。あ。る。の。折。中。を。這。頭。を。敏。系。華。古。
 昔。小。類。る。士。民。各。処。を。浴。て。屋。上。屋。と。加。る。魚。米。の。御。と。熱。鬧。徒。真。猫。穴。居。名。を。送。り。
 其の。趾。も。多。く。一。且。く。せ。め。ひ。と。不。飲。と。い。ひ。老。翁。老。婆。の。狀。形。ハ。を。を。る。の。け。り。今。又。



これら 奇異ありける。その時、衆人の胆を深く、大の徳高きを曉  
 得て、信心増しけり。登時、大の此彼と面衣をさす。剛才老猫の云云といふ。一実支  
 ぬ。洞より餘賊をかき。酒家先へ檢せし。四下の竹を伐採りて、快き炬を造りて、さ  
 大家ありて作り出せし。竹の炬の種平平の鐵炮の火索を借つて、吹程して、振照し  
 杜伎們へ、大法師に従ふ。種平嶋平共侶の杖を洞へ入る程。右の二さふかき。後  
 跟て入る。徳而、大の杜伎們と俱に洞内へ杖を火を抗して、四下とる。小奥の  
 廣かり。席薦六枚と布する。我鳥蟬坊の臥房をべ。夜物あり。家伏もさうり。又、這  
 東西のあり。年尚弱。三個の女子の累り俯くと泣くと、大のうらむ。右の  
 二門の杖起さし。同す。則是五ヶ年。己前我鳥蟬坊の搔擽れて、他が愛妾あせ  
 ると。故郷と向へ。葵岡也。這人々の相識れる。其某甲某乙の女兒を、はれ。洗ふ。名告り  
 敬馬くも。然すと大の。然れば件の女子們へ、大法師の方便で、妖賊誅滅せれる。

譯とて、再生の洪恩徳義を仰ぐ。感涙の外あり。大の然を慰めて、又右  
 門二門と共侶の次の房と檢する。這里は果と賽保輔魔夫太の尸骸あり。  
 俱に咽喉と破られて、全身鮮血を塗れる。必是牝牡の老猫を咬殺されり。人愈猜  
 多。嘆息して、這餘の錢の米を、大の一切を、只女子們を勤らして、馳く洞  
 より出ける。當下村長右衛門の杜伎們の指揮を、東西皆運び出さる。中酒を  
 あり。菓子あり。飯あり。大の蓋めて、餘れる。皆共侶の飲食して、饑る腹を  
 ひけり。介程、大法師の洞内より出る。贓物を熟視て、米鉢は是國土の至宝聊なり  
 と。云々。這餘の汚穢れ不義の材燔捨る。をさす。大の大家推諱難く、枕  
 磔。盃盤家伏席薦を、隨小積累して、差寄れ。折る。山  
 風吹れ。燃る程とあれ。皆灰燼する。事や。果。種平と嶋平洞へ  
 入。折樹下の敷系措たる風九郎と。章立んと。さす。亦咽喉と破られて、何の程も

死てあり原來又那老猫が漏さすと啖殺せあると云ふ、大いなるは這風九郎の  
 我鳥蟬們と同惡の草賊もれども這者獨死さるれば我鳥蟬坊が積惡もその賊巢  
 さ知られる他膝節を破られて廢人おるれば命を助け給ふと云ひける未の  
 ぬ回那老猫が殺せ、後正不是天罰と脱れ給ふ業報も、南無阿彌陀佛と念  
 する却衆人といふと、さかさんせし程、山峽既不明まけり、浩処人許す這方を殺す  
 來身とわが声謀く、此は是別人を、御大沼より返される故、老二名  
 村人們の門を敲いて有つと報知せ、更亦促きて、藻舟船を錢と衣裳と右邊の二  
 許會斂する、その更既果、大井の右邊の二門を迎の為、小なる人然、又右邊の二  
 們へ目今ある村人の洞の光景女子の、又小嘍囉三名、皆老猫が啖殺せ、縛の趣  
 筒様々として、一五と報知くと三個の女子と指示せ、その親の叔父の迎、來  
 隊の、往方も知る存亡も知る、五輪過した、親子の再會、送の、執、疎、鹵

あると云ふ、合もるもの、携るもの、外視も羞むら、泣き、心づけ、あま  
 大徳の洪恩世不有、活佛引接せ、利益を、稱へ、俱、身、轉、て、大法  
 師と伏拜して、齊一、演、は、是、より、殊、ゆる、人、多、く、あ、れ、幾、十、貫、の、錢、分  
 ち、藤、蔓、を、膝、で、擔、荷、も、あ、り、又、米、苞、を、駝、搭、も、あ、り、大、の、先、立、て、連、路、城  
 用、も、あ、り、介、程、は、大、法、師、の、朝、日、高、く、登、り、比、衆、人、を、懇、請、せ、て、又、村、長、右、邊  
 二、の、宿、所、か、ら、あ、ま、は、け、一、家、兒、の、男、女、を、迎、へ、た、道、尊、故、を、法、を、馳、て、客、房、を、請  
 待、し、七、席、間、と、差、め、を、せ、程、の、主、人、右、邊、の、二、故、老、種、平、嶋、平、の、昨、宵、祭、祀、を  
 管、り、も、音、さ、り、も、推、並、く、老、弱、男、女、三、百、名、感、這、宿、所、を、聚、合、せ、り、大、と、拜、功  
 徳、と、謝、し、願、は、大、徳、庵、村、の、茶、を、造、り、も、あ、り、を、留、り、お、ひ、と、請、求、る、の、意、か、り  
 大、い、聴、頭、と、掉、て、い、さ、る、然、る、と、せ、酒、家、の、年、來、行、脚、と、旨、を、且、志、を、美、あ  
 了、て、去、向、と、急、ぐ、の、れ、を、這、村、人、們、が、妖、賊、の、魅、ま、れ、と、不、忍、に、竊、不、智、計、之、旋

ら七。地方の患を除けの。一目も留る暇の中を。強固く答へ別を告て。去去んと去りて。右邊の二故老。由留難々商談と。供物の與に集り。那五十母貫の錢を。金も兒布施と唱へ。贈を欲せ。大に此も受む。詞正しく論を。捨は是有漏の縁。法師と肥と毒。某之出家の菩提を。寶とを信。故大集。經小妻。三珍寶。及王位。臨命終時。不隨者と説れ。い。酒家の。食行脚。七菩提を。求る。の。あ。千金。も。何。せ。利。縁。心。と。動。七。の。布施物と受納。共。亦。那。鷲。蟬。奸計と相距る。と。遠。五。十。步。百。步。の。回。多。近。來。山。内。扇。合。兩。管。領。武。威。既。衰。東。國。一。日。も。静。る。奸。民。盜。賊。折。り。山。憑。海。浮。奪。飽。是。良。民。不。幸。定。正。主。の。程。遠。五。十。子。の。城。の。軍。旅。不。違。故。故。長。阪。山。の。賊。緝。捕。の。沙。汰。の。民。の。迷。い。を。醒。て。苦。と。救。け。浮。屠。家。の。慈。悲。報。い。受。る。あ。願。の。村。長。故。老。輩。要。る。錢。と。衣。と。散。く。家。

寡。孤。獨。賑。ま。布施。と。浮。屠。家。の。媚。の。道。徳。の。功。徳。を。暇。ま。の。捨。て。人。禁。も。留。る。袖。う。ち。拂。ひ。外。面。の。草。鞋。の。紐。と。結。り。錫。杖。を。突。鳴。又。回。向。七。此。を。投。て。立。去。り。功。不。誇。る。利。疎。多。這。勇。僧。の。奉。勤。村。人。之。尊。信。七。総。て。餘。聲。を。惜。ま。け。憊。而。大。の。旅。舎。を。出。て。又。只。一。日。の。内。肚。裏。に。ふ。ろ。の。日。酒。家。石。未。多。指。月。と。退。院。多。折。那。四。大。士。の。言。と。送。り。穂。北。の。宿。所。を。俟。ん。と。約。束。と。あ。れ。は。思。へ。穂。北。の。長。る。氷。垣。殘。三。夏。の。原。是。結。城。の。落。人。也。嘉。吉。の。籠。城。せ。の。と。傳。の。立。寄。り。退。留。せ。夏。の。必。大。念。佛。の。施。主。と。あ。ん。と。請。ふ。る。べ。し。約。束。今。番。の。念。願。の。見。殿。の。奉。為。多。他。姓。の。施。主。と。あ。へ。本。意。不。錯。る。の。と。傳。君。侯。の。瑕。瑾。を。異。小。君。侯。より。賜。り。る。般。費。も。今。番。の。殘。れ。る。あ。加。る。ま。這。年。來。募。縁。の。一。錢。徵。塵。遍。の。今。番。の。費。用。と。辨。せ。憊。れ。氷。垣。の。宿。所。へ。立。寄。る。と。上。策。と。非。四。大。士。信。乃。道。節。們。の。約。束。の。差。と。大。塚。の。

成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル  
成氏をアル

大父大塚二成に結城で戦殺せしもの多し四月十六日の辰辰招きをも信乃們の末つ  
べ。因て去向復思ふ嘉吉の乱の總大将結城氏朝王の季子なる結城四郎成朝  
主成氏朝臣の御方を今に結城の舊城に在る是亦酒家大念佛の事情とされ多  
施主なるんとされせし此は就彼に就ての今番嘉吉の亡魂と云ふ所の深秘  
さてその期及びて執りせし呼介多しと吐向ひ腹小答つて西程の分別既決りし穂北の  
莊の通りかども水垣宿所へ寄る其頭を笠を傾けて連り路次をいそげける。  
附ては金碗、大長祿二年は伏姫自刃の折祝髪入道と安房と去る是日足年伏  
姫十七歳、大の王歳自來り以降今茲文明十五年に至り星雲相既五十六年履歴  
かの如く年陳てその志程らに竟り八靈王の止る所と大士の由来を知るをなす。  
この世の世不見れは第四輯多行徳の二段と第七輯多石木は段のいかに趣  
書は違ふるか世の人口も困る看過なるも其意一因て今這二回あり、大の與小

湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻  
湯嶋の巻

演る所真面目と頭なる者智慧と勇敢と越え初と瞭然とかの如くありぬ伏  
姫の義使と對する不足と又大士門を御道の大先達と做き足は這書言成の  
の勢をねば婦幼の與に教員言まよと看入る余が言を俟どりと分明なるは  
○按さる麻生小合龍前坊と喚做す所也那里の二百年已前茶昆所多れと物  
又さるる小合龍前坊へ人の名小あぶる似り此其稱呼を借用されも字の同  
づら則作者の用心は這餘端究の考証の本輯五の巻の附録小載る。  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る  
湯嶋の社頭小才子茶と賣る

上野の北條  
分限帳  
江戸廻り  
方上野と

少て、それ迄の江戸吹雪の都を遠く、又東北の上野の原、北條分限帳、江戸廻り、方上野と、寺の玉子も、都の熊知り、もまた下の田舎であつた。この神社の三月三日詣り、道俗ヨリカケレ、錫餅菓子、と、湯、坊、賈、勘、を、肥、師、放、下、師、刀、玉、の、棟、樂、を、做、す、あ、の、中、に、坐、敷、半、條、鎌、の、枝、と、七、朧、黒、子、と、除、け、茶、と、磨、齒、砂、と、賣、る、の、あ、り、地、方、は、花、と、華、衆、。白、面、優、美、の、壯、佼、也、。打、扮、さ、へ、精、悍、也、。身、衣、太、織、紬、の、深、衣、を、被、て、裁、着、の、括、袴、。脛、膝、不、跨、做、す、肩、衣、緋、の、緋、帶、の、禪、禪、と、掛、て、高、足、靴、と、さ、ん、穿、た、り、け、る、。這、里、あ、の、着、官、ヨリ、カ、ケ、レ、巨、竹、を、て、木、榻、の、坪、を、締、繞、ら、し、て、戲、敷、場、の、界、外、を、後、方、へ、尺、身、花、田、と、薄、柿、の、天、幕、と、仰、反、形、を、張、且、七、坐、敷、。大、刀、と、鐮、鎌、と、取、置、の、横、さ、る、小、節、光、ら、し、る、左、の、小、黄、銅、の、皆、具、あ、る、賣、茶、箱、子、と、其、ま、措、て、その、身、に、登、見、お、死、と、掛、ら、姑、と、お、あ、い、。登、見、を、て、若、く、若、集、の、衆、人、と、對、し、て、今日、も、相、替、り、各、位、諸、君、御、機、嫌、と、本、社、御、參、詣、の、序、沙、と、以、小、可、店、舗、へ、處、陟、を、立、寄、り、せ、め、と、執、行、は、提、の、の、り、。

ひど、ど、い、ろ、う、つ、ま、ち、や、つ、れ、ら、さ、う、ゆ、う、や、く、の、ろ、う、げ、ん、を、さ、う、さ、の、上、野、ら、ら、ん、せ、ん、光、を、う、日、毎、小、御、披、露、仕、の、身、小、可、家、方、の、妙、茶、ハ、唐、山、玄、宗、皇、帝、の、死、時、小、羅、公、遠、と、公、仙、人、ノ、揚、貴、妃、ノ、授、受、を、る、神、仙、丹、丹、の、靈、劑、を、面、部、を、足、し、生、じ、る、朧、黒、子、と、扱、去、る、と、言、ふ、此、塵、を、拂、か、る、易、ろ、又、這、磨、齒、茶、ハ、世、小、ヨ、ク、あ、る、所、の、房、州、砂、と、も、せ、の、寒、水、石、と、打、碎、水、に、浸、去、細、末、小、と、加、す、子、龍、腦、肉、桂、乳、香、沒、茶、と、以、寒、水、石、石、膏、と、石、膏、と、味、辛、微、寒、て、毒、を、心、下、の、逆、氣、敬、馬、端、口、乾、舌、焦、れ、息、ま、る、と、能、さ、る、小、即、效、の、又、乳、下、し、齒、を、搯、ひ、齒、と、益、一、胃、熱、肺、熱、と、除、氣、益、一、陰、邪、と、散、一、留、飲、を、下、一、太、渴、に、て、飲、を、引、く、と、中、暑、の、潮、熱、牙、痛、と、治、す、。這、餘、の、效、能、最、ヨ、ク、の、枚、舉、を、追、お、し、後、を、け、液、を、飲、て、腹、内、に、到、つ、と、も、大、益、の、と、小、損、を、。那、房、州、砂、の、齒、と、損、一、脾、胃、を、害、あ、る、類、あ、ら、ん、茶、劑、御、用、の、お、愛、敬、也、坐、敷、刀、の、扱、去、と、鐮、鎌、の、使、を、お、笑、ひ、は、歎、か、ら、ん、。尚、又、吉、凶、悔、吝、の、刀、祢、違、も、す、は、さ、へ、入、相、の、相、好、は、儘、一、と、吉、凶、と、判、断、せ、ん、此、は、是、面、部、の、黒、子、の、人、相、の、吉、凶、を、構、つ、の、の、あ、ら、ん、と、小、可、這、技、の、疎、齒、を、相、刺、の、受、し、坐、敷、の、後、お、かん、。

七般の武  
 精細編  
 手い  
 詩  
 考  
 明  
 同  
 實  
 の  
 如

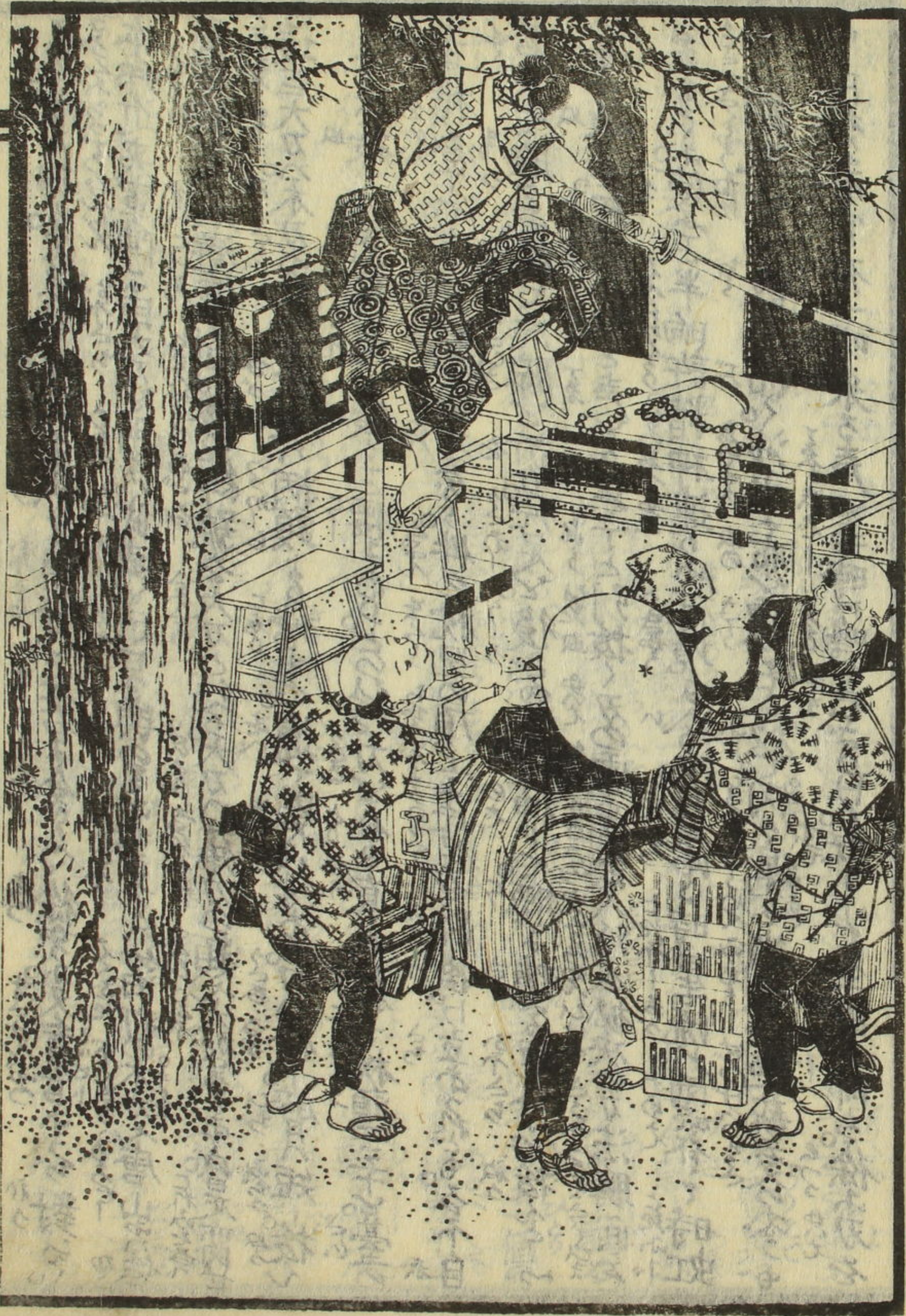
好儘先。然るに徐送の居送を。徐送回せぬか。却是よの坐敷の辨論の崖略と。景  
 去演ん坐敷の原是若路軍又組敷より起る所坐して脩刀を扱へよ。その術と知ら  
 る。腰刀剣ありと。奈何とせん。此は唐山を所云十般の武藝の由る所の  
 那十般の武藝と云へ。一は二小弩。二小鎗。四小刀。五小劔。六小矛。七小盾。八小斧。九小鉄  
 十小戟。十一小鞭。十二小筒。十三小橋。十四小及。十五小又。十六小把頭。十七小編繩。十八小  
 白打。是は明朝の武藝の白打と第一と。白打の巻法の類。河西の少林寺の巻法を世  
 間小見所と一書よえ。這餘捍棒打播火砲鼓手丸等の武藝あり。兵録小載。其の所  
 槍棒の題目極々。近屬明の英宗の正統の季年。山西の本寺通との武勇と  
 人のよく敵を死する。その技其藝と試ふ十八般あり。それをて京人子教へ。遂に首選ふ心  
 きて武職と授けらる。其れも勲業とて。頭をさる。一と水滸傳。宋の徽宗の時八十  
 萬林軍教頭と武職あり。皆十八般の武藝とよま。此は是寓言足本邦の中

果よの武藝の題目より。今二十八般あり。其の崖略と。景宗一。二小劔。三小  
 騎馬。四小盾。五小鎗。六小水戲。七小隱形。八小巻法。九小鉄砲。十小昔番。十一小火矢。十二小棒  
 十三小鉄。十四小鐵。十五小鐵。十六小十。十七小烽。十八小大銃。是は如。流鎗馬笠  
 楸大追物。牛追物。水馬坐敷。鏢鏢騎射。騎馬砲銃。銃共十八般。是は後世用の所。武  
 藝。上古の矛と鎗と。弓と鉄砲と。巻法の近曾明人の所。又是白打の二法。後又  
 行候の巧拙あり。又甲冑の撰るあり。師傳ありて。武士の一術と。新田左中將家の相傳  
 あり。義家朝臣撰甲の圖説あり。撰甲と甲と被る。就中鏢鏢の本邦古より。最  
 上の武器とせらる。然るに大織冠。鎌足公藤。巻の鎌とて。逆臣入鹿と誅し。又唐  
 山の鉤の鎌を以て。最上の武器とせらる。吳越春秋に。吳王の鉤の干將。莫邪。伯  
 仲を鉤の劔の名。又曲刀。又熊の類。這餘る種々の口傳あり。長口状かん退  
 屈の方。さる。然るに先坐敷の刀の扱。と脚躰を入。扇を推。置

八代傳八陣卷下

主

文藝堂藏



八代傳八陣卷七

十四

文樂堂



湯嶋の社頭  
 年らあまひとの  
 の茶西買入坐  
 敷大刀と抜  
 く處

ノテハ作ハ車先

文樂堂

腰挿し。後方を拭る巨大刀。左右を合せり。徐々又看官ふら。對ひ。本邦近來軍陣。巨大刀を用ひ。武威を示せ。與の。多し。竹打の木刀。唐山。法。る器械。水滸傳。関勝の綽號。大刀といへ。大刀ハ。薙刀の類。大なる。是。因。此。這巨大刀ハ。木刀。柄。短。柄。頭。より。端。まで。通。て。四尺八寸。あり。刀。ハ。脩。一。臂。ハ。短。挿し。と。き。挿し。て。見。る。是。と。抜。く。と。腰。より。と。ひ。つ。刀。を。合。直。し。と。箱。子。枕。頭。二。千。臺。の。上。に。積。登。り。高。足。駄。を。穿。き。り。件。の。枕。見。の。頂。上。に。足。を。踏。掛。け。立。あ。げ。る。不。自。若。と。七。賤。を。軀。て。片。膝。を。折。り。足。を。後。に。遣。伸。し。腰。を。挿。る。巨大刀。を。抜。く。い。ま。抜。き。忽。地。耶。と。声。を。け。て。丁。と。引。抜。く。刀。の。電。光。斂。入。活。人。秘。決。の。刀。法。瞬。間。を。る。た。ま。不。使。ふ。と。半。晌。許。精。神。連。り。不。住。境。を。入。り。て。月。落。時。星。流。れ。雨。亦。存。時。虹。横。り。朔。風。雪。と。散。き。如。く。沙。水。を。布。と。曝。き。似。て。閃。々。微。妙。の。絶。技。を。入。る。も。あ。ら。ば。看。官。存。一。喝。來。る。声。雷。時。の。鳴。も。已。さ。り。け。り。既。に。坐。敷。師。も。徐。小。刀。を。

鞋不斂めて。枕見を拂。片足と俱。礮と種。數層の。其。子。を。穿。り。下。立。り。世。不。珍。一。剽。捷。と。只。願。感。嘆。せ。ら。る。或。ハ。磨。齒。除。黒。子。の。茶。を。買。ふ。の。言。を。多。賣。果。て。坐。敷。師。ハ。又。衆。人。よ。う。ち。對。ひ。是。より。又。錄。録。の。一。編。を。か。ん。貝。被。く。れ。ども。今。朝。よ。數。遍。の。さ。れ。ハ。聊。疲。勞。づ。ら。も。あ。ら。ば。且。中。休。ま。仕。ら。ん。邊。せ。ら。ぬ。刀。袷。連。り。る。不。あ。足。と。駐。め。ぬ。武。士。の。皂。蛇。皮。絹。の。小。袖。を。被。て。朱。鞋。の。兩。刀。を。跨。深。編。笠。を。戴。け。る。が。向。ち。後。方。小。立。在。て。件。の。坐。敷。を。見。ら。し。小。傍。ま。の。稀。ま。り。と。折。し。と。思。ひ。ん。技。寄。り。て。坐。敷。師。成。大。や。く。と。喚。び。ま。る。編。笠。を。脱。捨。る。と。さ。れ。ハ。月。額。の。迹。長。く。伸。て。色。薄。黒。く。眉。秀。眼。堂。海。鼻。梁。直。叩。と。身。材。高。於。杜。校。之。却。這。武。士。ハ。雁。鳥。揚。不。坐。敷。手。師。よ。う。ち。對。ひ。俺。の。向。ち。這。里。あ。ら。と。和。郎。の。技。其。藝。と。孰。覽。せ。し。ハ。江。湖。上。の。坐。敷。師。の。深。る。技。と。向。ち。一。進。一。退。法。を。稱。ひ。て。聊。も。空。隙。を。是。と。軍。陣。闘。戰。の。間。ハ。施。ま。と。あ。ら。ば。よ。く。告。雷。の。の。る。と。下。



又只武藝の事あり。和漢の故実と並奉て衆人示す。亦架空の談義あり。文備あり。武備あり。と。徳る人。其の才。只管感。と。今亦同く。欲。和郎。其の才。賣る。與。面相。相。需。不。忘。と。以。つ。つ。実。語。る。然。肱。患。子。相。宜。一。か。る。その。故。奈何。と。向。か。り。听。く。坐。敷。師。更。阿。容。る。氣。色。を。憶。む。微。笑。て。仰。け。り。い。は。世。渡。り。種。多。拙。技。と。日。毎。現。る。人。其。れ。も。君。如。は。の。補。風。鑑。の。技。も。学。得。さ。る。あ。ね。も。その。書。わ。れ。古。人。と。師。と。一。獨。学。孤。陋。杜。撰。も。あ。り。任。れ。坐。敷。の。事。も。然。ま。で。言。さ。せ。ひ。て。多。く。當。り。か。ら。い。と。恥。れ。る。多。く。向。せ。ば。京。ま。る。風。鑑。家。十。觀。の。眼。下。を。男。女。と。名。け。て。淚。堂。と。陳。氏。の。相。妻。景。淚。堂。景。斜。紋。あれ。先。に。到。て。見。孫。と。尅。と。い。是。又。眉。後。と。移。遷。と。ま。左。程。宮。右。遷。宮。の。相。論。云。遷。程。宮。若。昏。暗。缺。陷。及。黒。子。あ。れ。出。る。宜。か。ま。虎。狼。と。扱。馬。と。い。つ。か。の。如。に。肱。黒。子。も。扱。去。る。と。い。い。患。ひ。と。い。を。武。士。に。冷。笑。ひ。て。掩。笑。く。荀。子。非。相。の。竹。扁。あり。荀。

卿の論云形を相する心と論する不如を心と論する術を擇む多形心は勝走心と術は勝走術正しく心氣を須く則形相悪といふも而心術善れば君子たるも善なり形相の善多るといふも而心術悪れば小人たるも善なり君子の吉といふ小人の凶といふ故も長短小大善悪形相の吉凶はあはれといふ且これを徴する古の聖人大賢衛の公孫呂楚の孫叔敖葉公子高孔子周公阜牟陶関天傳說伊尹堯舜禹湯は皆善相あらざるより以てその言听くその論味く然と説相家の取舍を所龍形虎鶴形獅形孔雀形鵲形牛形猴形豹形象形鳳形鴛鴦鷺鷥駱駝黃鸝練雀等の形を似ると富貴の相と猪形狗形羊形馬形鹿形鴉形鼠形狐形狸形の如きを兇暴貪薄天折の相とを夫人の萬物の靈不これる貴は命龍虎鳳凰獅子孔雀は皆是禽獸不これ人及び人の身これに似るといふも吉兆ある加旃味紹高彦根神天稚彦と相肖たり亦

壹岐直真根子の武内宿禰と相肖なり共是一身二體あり如きと。妻子兄弟といへどもこれを識別すの事。夫も亦心術と命の長短同か。又平将門の家臣。王と相肖すの云々あり。夫れも亦その勇将門は及ばず又源頼朝へ身材矮く。また頭一斗の飄不似たり。夫れも亦名将不害なり。又梶原景季へ面白く。孤不似たり。夫れも亦勇士不害なり。是史傳に載せし所然るを。知五尺の身。粟粒なるの黒子あり。とも真愛と做まざらんや。と詞きく説破を坐敷の師。少頭を掉て。御論は是然ることあり然れども五尺の身。一分の鏡芽の心。甚くと堪ざり。倘抜くと日を経ると。遂は患と做まざる。面部の黒子。これ非同。涙堂程遷あつた。遂に除去されば。憂と做まざる。凡人の身子在る所の黒子。隠る。好くと見え。よてテ。漢の高祖。八身の内。七十二の黒子あり。あつても異相と。黒子の舌。凶推と知るべし。又心神天皇の腕。散の形あり。あつても異相と。和漢の明證類と推ま。抑風塵の一。

術の孔子の教ふるを以て。一方不偏の学者の荀子の非相と甘と。信するべし。と云うれども。素問内経に色脉あり。色脉は觀相之。唐山より上古より。その人小匱。かき只人の形。よく相する。さるべし。牛と相。馬と相。劍と相。笏と相。寤戚伯樂。皮煥東方朔。如は至て是と小技といへども。言くは神術。是等の形と相する。と云う。人を相するは。のの色脉と視て。生死を辨。聲音を聴て。邪正を知。信る故。宋の陳希夷の相書。云夫相貌の好らざる。心田の好まざる。若相貌の堂々たるも。その心田奸險あるも。富貴の日あるも。貧窮の時に。その相貌と。視ぎて。先と心田と看よ。相あると心すれば。相の心に従て。滅ま心あり。相るれば。相る心は。後て生まるとん。いはける。是神相の大関目。よく思わざるべし。と云う。よく人を相するのの形。よと心と相。面部の氣の鍾。所喜怒。真愛樂。愛哀苦の七情。胸に發するのの。俄然と。とその面。見えと。と云う。二尺の童。子といへども。その氣色と看て。知る所以。相に心に従て。生まるとの。あはれ。然佛説。子相。

十觀十二宮の外を出入るの獸形禽形に似たり以断るのの譬言喻してその義を示す  
人の形局を獸の如く禽の形に似たりも同か所るを以て小のりく大の譬言へ  
卑との尊不喻るを萬古又あり。説相のを限り天子の龍顔逆鱗といひ兒  
孫の麒麟見千里駒といひ暴虐の虎狼野心人面獸心といひ如彼とて此の譬言  
ふ鳩胸猫舌猴眼俗語といへも皆信んぬれらる古人の杜撰とせん然天朝の三善清  
行伴廉平安倍晴明少納言維長の諸賢と相学の達人とま上せりや聖徳太  
子の崇峻天皇と相ひ鈴鹿の老公相天武天皇と相ひるののあはれと説  
相者流へ引出て明證とすもあれその術後侍らねばいふありけ今ゆくも考る所を  
只宋明の諸説より聊愚按と演るの用捨の君が隨意とんと依合の辨論委と  
る才幹言句を見れば件の武士の感嘆と通愛と宏論俊才尚春秋に富みたる  
文武小長へ奇多る然れ今某と一相とあるべとのりく近く找と朝と坐敷手

師ハ熟視て十二宮通て勇不き義を守り明君とて名も成ま。百日と出で  
虚教馬の後子欲ひあふ此は後讖之先當要と看ると天停小殺氣の是宿  
怨ある故子仇と現ふ人似る田宅地閣豊満と勢ひ天庭小朝表もその色黄  
明る故子謀遂が。遂むと遂るが如く敷果さるとその仇死を下。上皇の黄るハ  
吉昌といふを武士推禁めて。噫声高し。四下入あり。慢は大事といふ。和殿は素  
生もゆまほり。俺人も詳し。告名と心も目今ハ折りなり。羽立の朝開は又あるべとの  
折茶と買んま。詞と送別と生足。編笠合とら。戴は東と投て還るもくと。雲雲時  
目送る坐敷師の。尚や。候といひ。いで名残と惜しけり。這折茶も立ま。此彼の  
回答とら。一つ。一個の旅客あり。傍人のるを。いそぐ。找近着つ。坐敷師より  
對ひ。咱們も亦宿望あり。堂の紋理と看る。ぬね。といふ。坐敷師の。賣  
茶箱子の下運より。水日鏡と。先旅客の相貌を瞬も。得と觀て。誘



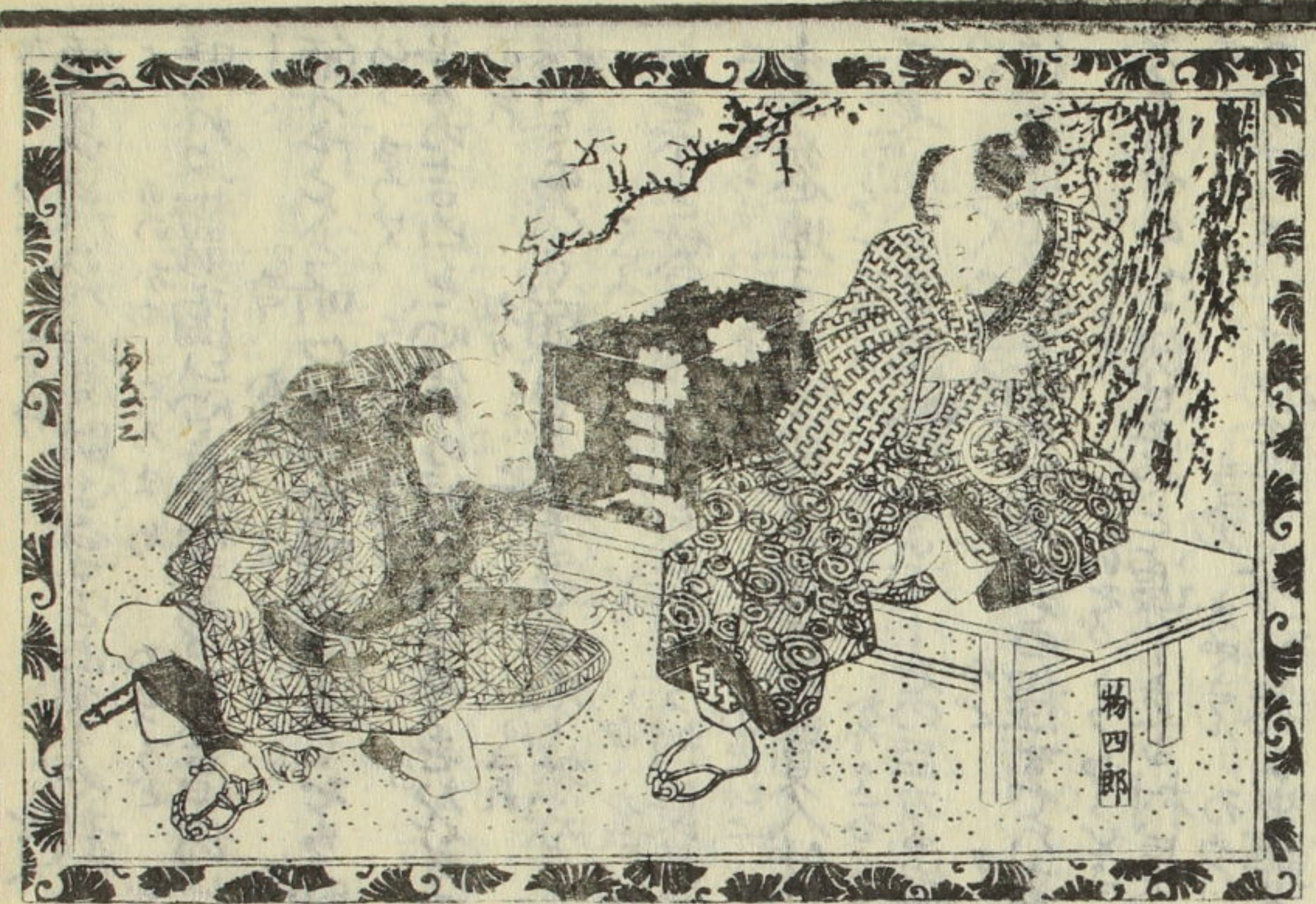
はれ、哥々の老鈍氣で追も出まへ人食齒齧く長かゝも現生啞での麻重等での老々ち  
驚馬あ及びるのけ日属の氣貫ふ似けも。土丈二の鞭撻懲して出入ると林末のり  
奸夫淫婦の事いふ免れを執りて恨く思ひて此彼密山談をうけ土丈二の一日竊は  
貝へ赴きて守又新稟をう右龜屋次園太の御高み大川柱介を敷られる童子は隔子酒類  
二門と密々交りて。服物を買ひ多賣りせりといふ。這昔悪人知りこれ喜ぶか  
聆まの鳥。小可の次園太が乾見をいへども。その連係と免れ與る竊小忠訴しなは證  
据は是をいへども。推考さける短刀をう辰守まわさける。その短刀の去歳の百那那賊船魚が  
小文吾刀柄と刺んとる。東西をうけ那折は新稟をへり。と絆は紛れそのそ及つて  
大田刀柄の俺哥々を渡させし。ふ又嗚呼善き渡して濠借はあ然と嗚呼善き  
土丈二齋して良人を吉幸あせと右の如き計較を信而片貝の別館る。有司奉りて  
詮議あり。誰か知るを短刀の木天蓼丸と名けられる長尾家の重宝あり。一蔵村

雨の名刀るや。監定の與ふと。日暮御家臣龜山連東太が稟を儘して。武藝の  
師と号え。下野赤岩の御土をける。一角武遠許遣され。那縁連の故のあけん木天  
蓼丸を携て。逐電と往方と知らざる。故の白井殿をう。又別人を遣。あは赤岩  
穿數金あり。那一角の妖怪を。真の赤岩一角の子をける。大村角太郎礼儀とあ。のそ  
され角太郎大角と字と改め。故御を去て。是も往方へ知れざる。死して件木天蓼丸の  
穿數監照驗する。たれが白井殿の惜ませぬ。て死憤り天々る。ねと見術竭て。二三稔空  
過さる。ひと。悠の縁由のあ。は。片貝殿の目取太。哥々を疑。憎せぬ。擗捕せ獄  
舎に敷。却土丈二を答。を。過分の賞錢を賜り。嗚呼憐む。俺哥々の奸夫  
淫婦を誣られて。冤屈の與。獄舎在の幾番と。責られて。木天蓼丸を竊。合  
出處。那縁連の所在と尋問。れ。其頭。の。小。七。甚。知。る。あ。ん。只。船  
虫。懐。ふ。して。大田を刺んと。つ。外。の。死。る。れ。有。つ。る。依。は。箇。様。々。と。稟。し。美。伏

せざりしを片貝殿を女儀あれは憎せむも別館の執事稲戸津衛由元主  
 邪正と昭々を智慧ありて冤屈をなすは去歳の暮春の呵責を制めて活もや  
 殺しもせむらう美伏あつても久し獄舎置置を死計いとせしや余程淫婦嗚呼  
 善の思ひの随謀課せし良人を憎れよ世も人も憚りて幾程もく土二の後見の  
 與よと宿所を召さる家事を任して夫婦のてく府舎を誰を憎めぬのふけれ土  
 丈二片貝殿より賞錢を賜ふて御沙汰宜なるのれは有敷ふ守と憚りて面面相  
 公のあはれ日展廣の児口子儀を虎の威を借るの言えとも憚り折る皆阿容々  
 哥々の與ふ力を盡して義を走るとまののるを最朽惜くとも錢を商議敵小  
 匪徒掩身ひらで争何せん現片糸の線する孤堂の鳴りたる氣の心  
 公支ふるゆる人へ問試一の人の誨を去歳の夏より白井殿の面管領  
 と久和睦の風声の輝きなく小整して今春の御對面のとと沙汰せは扇谷の

今もあ  
 稱業頭  
 の時の俗  
 るは俗  
 上ま  
 業人  
 業人

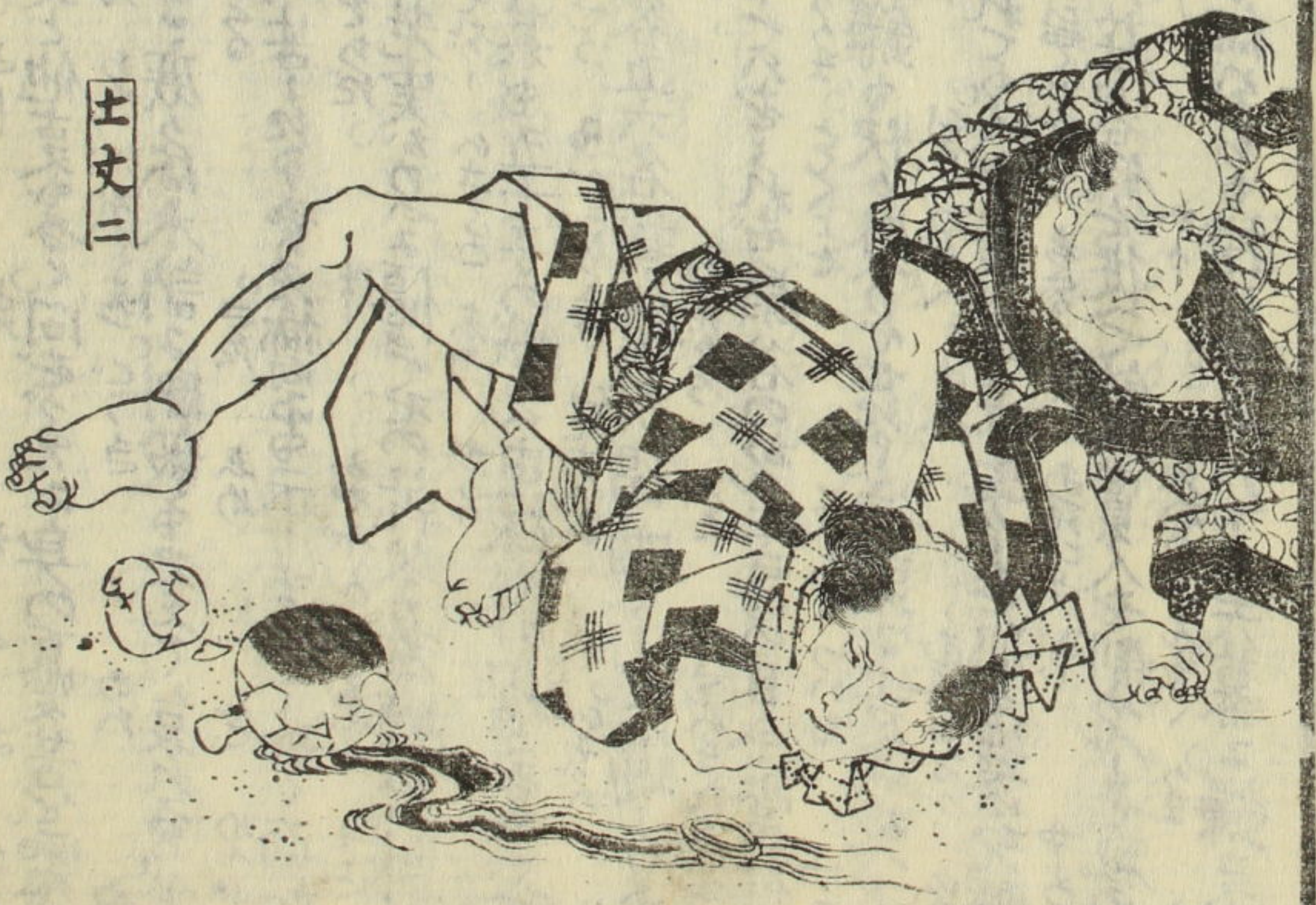
おとさる蟹目御前と唱まらる白井殿の叔母君を女儀を稀る思慮浅くを慈  
 悲深くはほまると信じてるのりもありては殿武藏の五十子と赴て城  
 内自由縁を求め蟹目御前願ひ稟して次園大翁の冤屈のよと歎ては憐れを  
 乞ふる萬はひとり那方さるも死詞をなされて白井殿御沙汰ある然れども片貝  
 殿もさるも救むるもあらん是より外は殿の誘ふ試とくとのれはれは方  
 つたひ合々東西もさるも走馳て小千谷を啓行と夜を日續て来まければ五十子の城  
 内は相識もさる由縁もあはれ然るに那里推衆して愁訴とせんはさるを左の右を  
 思惟る小這菅原の天満神の人の冤屈を救せぬ御誓願ありと歎けは先神社で  
 日ぐるも祈稟とせんは起し初て拜まらりて下向路要時和主の坐敷を  
 視て稍衆人の立去る折を待たず相の吉凶を問けるを看る判断啗合一人の資  
 助を得るに念願成就すべとのれよの歎けは長物語のなたる仕生る人へ



土文二

楊四郎

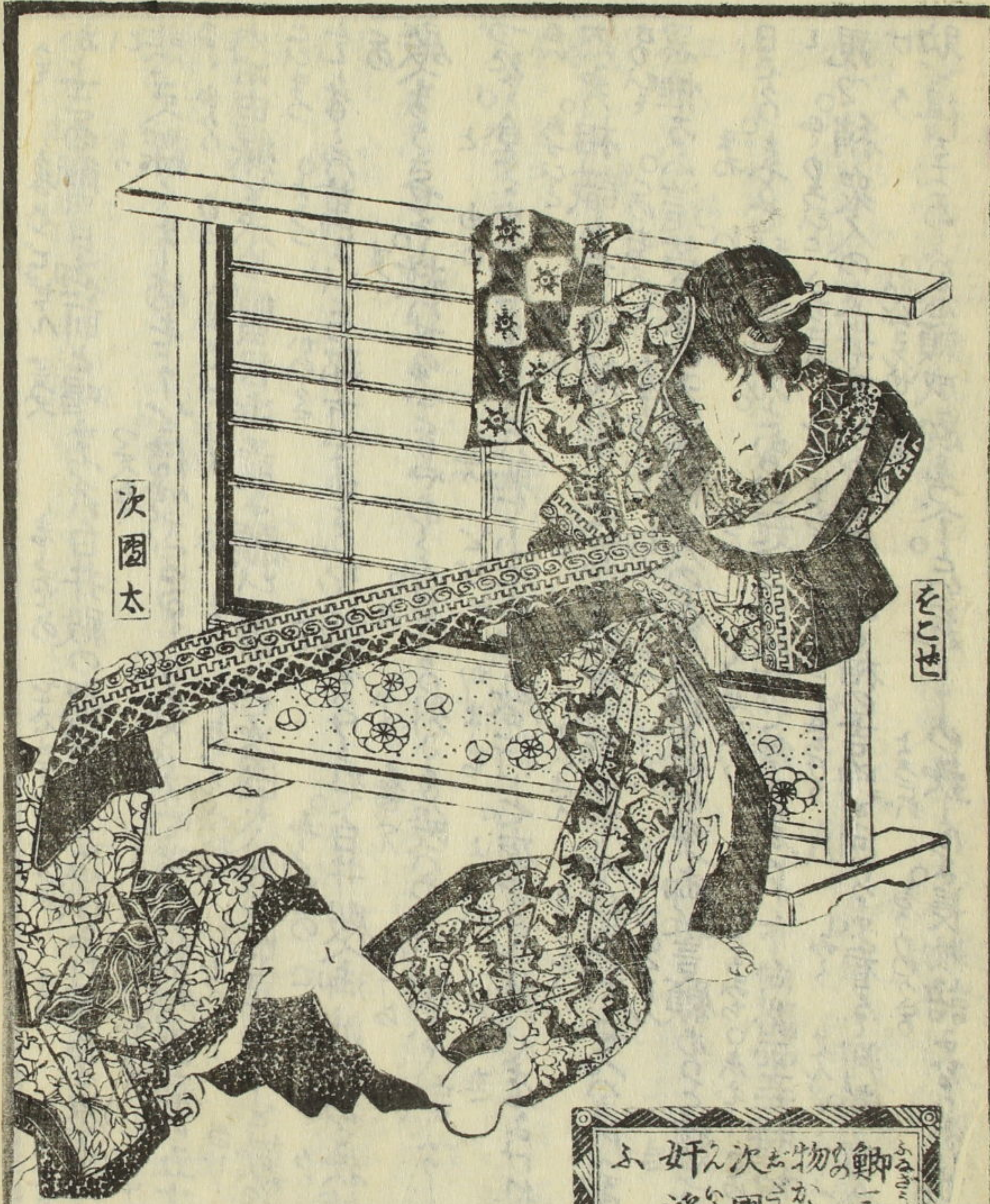
八代傳八郎卷二



土文二

共

文楽堂藏



次園太

土文二

八代傳八郎卷二

ふ 奸 次 物 卿  
 淫 人 園 云 越  
 を 太 路  
 捉 夜 の

文楽堂藏

便うと求め。次見助よるる。父の教めと他支もく。問どる。身の息を其と。雲齋せど  
 暗れぬ。鬱陶心。真実る。田舎見の。仁は。庶は。木訥。剛毅も。又え。哀れ。坐敷  
 師へ。聴く。憶を。嗟嘆。胸苦。御向。如く。面部。  
 當の吉凶を。心術の好。好。老実。優。乾。孝順。誠。神。  
 憐。願。遂。然。其。五十子。城。由。縁。又。攻。お  
 ら。と。竹。詞。詠。折。村。長。莊。客。五。六。名。割。竹。を。引。揚。鳴。て。遠。け。走。り  
 走。忽。地。を。声。と。被。けて。よ。登。賈。人。然。て。を。肩。谷。の。上。さ。の。目。今。當。社。と。乘。り  
 其。快。天。昔。本。極。合。下。の。巨。刀。の。餘。録。も。快。外。へ。て。這。頭。土。居。て。下。向。の  
 後。亦。復。賣。買。と。の。程。を。忘。れ。て。人。を。聚。合。て。立。坐。る。を。那。逆。亦。轎。子。に  
 又。え。さ。の。快。甚。と。遠。立。る。村。長。の。莊。客。們。を。從。て。餘。の。賈。人。を。制。め。て。社。の。か。へ  
 走。り。け。り。け。り。貴。人。の。社。衆。坐。敷。師。ら。ち。も。措。れ。引。下。を。天。幕。を。鎌。三。大。刀。と

巻。敏。て。倒。の。門。番。屋。雨。時。憑。も。措。ん。ど。肩。小。載。せ。て。も。不。餘。の。賣。買。茶。箱。子。の  
 高。足。駝。踏。繼。其。木。枕。も。廻。り。難。る。も。捐。竹。目。面。と。抗。む。遠。く。俱。に。慌。る。郷。土  
 見。過。ぐ。も。傳。へ。運。び。果。せ。と。重。く。胸。も。決。治。ぬ。け。の。時。宜。し。轎。子。小。備。ゆ。り。怒  
 訴。を。上。に。致。致。不。等。要。時。不。覺。然。と。不。敬。の。外。は。遭。へ。命。其。首。亦。終。る。べ。左  
 多。を。右。見。然。と。不。樂。々。怖。の。た。と。け。世。の。鄙。語。小。漏。を。板。樹。陰。身。寄  
 ま。れ。坐。敷。師。の。舖。棚。の。迹。土。居。轎。子。の。行。過。回。り。小。程。小。官。領。肩。谷。定。正。の  
 内。室。解。目。上。の。近。属。持。資。入。道。の。造。受。湯。嶋。の。神。社。へ。詣。ん。と。昨。日。よ。る。准。備  
 あり。時。小。文。明。十。五。年。の。春。正。月。廿。日。巳。牌。小。五。十。子。の。城。より。路。次。の。新。粧。許。三。の。士。卒。侍  
 女。醫。師。後。は。後。先。子。立。外。珍。々。春。の。野。の。草。も。萌。葱。の。丹。雉。刀。杖。小。掛。て。憑。心。神  
 社。の。朱。の。玉。垣。緋。の。油。篋。色。の。對。の。灰。箱。子。大。路。険。と。徐。々。麻。半。り。束。て。白。金。湯  
 湯。嶋。の。茶。辨。當。被。衣。の。女。孺。伴。轎。子。の。先。小。殿。の。折。傘。の。折。目。正。武。家。風。俗。も。光



和春の日記八重と一重とあるを。梅も優る初花と自ら塔上青人草の如くついで  
 を齊一かき目送のける。徳而鮮目上の轎子の湯嶋の社頭より来たれば社僧然る如  
 出迎へ。案内の立んとする折鮮目上の日属より麗愛深に離れ猴あり。這日轎子の  
 容まき。膝の上は措れる。這離猴猛可同極騒いで走り出まく欲せり。其の足はさき  
 ほうは必んさきまき。出と淨まど致まきと仰まき。乗らる轎隸の老侍某申り  
 え。さこののすれけけ。え。こさる。うけしり。更又青侍某し。遊とさんせ  
 る。却轎子の簾を掲て件の離猴と受合ら。更又青侍某し。遊とさんせ  
 程の絆の切や緩まけん。離猴の忽地閃りと放れ。社頭より老侍銀木の梢より走り登り。嘆  
 べ。降る。主のゆえ。伴當の老弱男女慌迷いて趕捕へと欲まれば。樹の百松の壁を  
 け。杪の雲を凌ぐ。枝敏く皮さ黒。十田を。餘る。轎不足。掛。処。一  
 天飛ぶ鳥。小。さ。り。せ。那。里。不。到。の。易。く。は。是。故。鮮。目。上。の。轎。子。と。駐。ま。せ。便。直。ま。る。  
 と。向。い。ぬ。人。も。大。家。頭。と。病。ま。の。忙。然。と。計。の。所。所。と。知。さ。け。の。左。右。ま。る。程。の。離。猴。と

手裏の杖。こつ。木。竹。小。枝。小。絆。の。切。の。幾。重。と。も。る。膝。れ。果。の。短。う。り。か。は。是。の。離。猴。と  
 杪と彼此と木竹小枝小絆の切の幾重ともる膝れ果の短うりかは是の離猴と  
 駭慌て引抜んとせ。程の倒るの身と引締りて。苦むと甚く。是。精。竭。け。衰。へ。絶  
 も。果。死。形。勢。ま。り。鮮。目。上。の。轎。の。内。より。遠。く。商。り。那。い。ふ。見。不。便。今。那。離。猴。と  
 速。不。助。命。の。の。の。賞。禄。を。依。る。死。を。尋。て。え。と。仰。ま。れ。も。魚。般。が。雲。の。梯。と  
 借。り。ぬ。の。の。の。企。及。ぶ。も。あ。ら。主。從。齊。一。の。氣。を。同。く。社。僧。の。商。議。あ。れ。と。も  
 行童の愛護孺まければ。離猴の。と。皆。疎。幽。也。鮮。敵。の。も。ぬ。俱。樹。杪。と  
 向。上。て。も。の。折。ま。も。舖。棚。の。迹。土。居。て。痿。痺。ま。ま。せ。坐。敷。師。人。々。智。も。ま。く  
 技。も。ま。り。し。る。不。痛。痛。け。れ。憶。も。冷。々。と。這。伴。の。頭。人。か。り。け。扇。谷。奥。隸。の  
 老。當。不。河。鯉。權。佐。守。如。と。喚。做。ま。の。の。の。不。敬。と。外。る。声。切。る。か。れ。汝。の  
 怎。生。る。の。の。上。の。御。龍。息。の。離。猴。放。れ。俺。們。も。周。章。ま。る。と。汝。獨。鳥。許。を。死  
 狄。不。敬。の。奉。動。言。語。同。断。の。情。由。稟。せ。の。と。敦。圍。是。茶。く。女。せ。も。坐。敷。師。と。此。の

謀守如ふらち對して不在下、這処之坐敷、鏢鎌の技も、生活の次見まはるは、茶  
 買人でいふ上のまゝ、倉のまゝ、權且舖棚と合斂めて、地所を成して、程は方僅憶も  
 笑ひ、是乃衿們を扱せり、畜生も、那衿候が、衿候智慧も、技も、氣の  
 固く死に候ふと、まゝと堪ゆ、野夫も功者、死す、尚在下、命せられ、衿候助  
 け下ま、守如怒と轉七、勢も大なる、憶も額と拍て、一段のりか、快ん  
 衿候も、合又よか、賞禄乞ふ、依え、と、堪も、坐敷師ハ、坐敷の、左右も、左  
 妙も、向して、那、肉根、根、二、大、ま、の、枝、も、然、も、段、旋、七、縦、妙、小、到、候、と、も  
 踏外、今、這、世、の、別、れ、活、業、も、功、名、の、樹、登、り、と、行、心、あ、つ、後、悔、其、首、立、た、が、つ、君、成  
 思、も、身、の、為、に、在、下、も、亦、願、ひ、あり、這、ま、許、ま、る、ん、と、同、復、し、權、勢、の、憚、り、氣、色  
 する、け、の、單、竟、又、坐、敷、師、其、慮、も、る、ん、と、い、せ、る、と、次、の、卷、小、解、分、は、を、聽、候、か、  
 里見八代傳第八輯卷之七終

南總里見八代傳第八輯卷之八上套

東都 曲亭主人編次

第十九回 奇功を呈して義侠冤囚を寧む

再説坐敷師の銀本の樹杪を放き、衿候と合ふ、と、の、身、願、事、あ、れ、と、左、右  
 る、立、も、あ、つ、守、如、連、の、催、促、と、今、あ、つ、と、那、お、衿、候、と、速、れ、合、つ、て、上、あ、つ、  
 せ、る、汝、が、願、ひ、何、ま、れ、被、ま、し、聽、せ、る、の、と、あ、つ、と、法、の、咄、の、上、の、お、守、護、か、伴、當、の、一、臆  
 る、河、鯉、權、佐、守、如、武、士、の、不、慮、言、ひ、の、所、願、を、必、す、の、功、有、無、に、依、る、は、な、ら、ぬ、  
 狐、疑、せ、る、准、備、と、快、く、立、ち、用、捨、る、火、急、の、下、知、坐、敷、師、の、言、は、し、謙、ま、合、笑、  
 然、も、ま、ま、言、せ、る、も、稟、上、の、御、意、が、か、り、と、稟、上、候、宣、言、は、し、諄、着、隨、時、積、り、備、え  
 衿、候、の、怪、我、の、不、敬、謝、枯、魚、の、市、の、訪、り、功、を、せ、る、の、向、先、即、效、と、奏、し、後、お

愁訴のよと安まらばと信をいふと守如の安んずる安んずる安んずる。力も枝も  
 保つてのまじきと焦燥と此も猶豫せり。程遠くは轎子の内の中具はるるが鮮虫目  
 上の憑りと竊め飲ひあひけり。小程は坐敷師の随の期と推て守如が誓言の詞をうち  
 听し。再擬議を衣領撥斂めて恭く。又守如より対して。宜は仰の重けれ命限は  
 枝る。先樹登りを仕らん。誓を許し。あひのさう。身と起せ守如然。且訝り。ぬり  
 脱落のぶたさるる。假標の準備の元。と。同の坐敷師頭と掉て否然。準備の  
 いた。兵より拙速。由貴よりたのむ。巧なりとも。時と得。六日の昔。浦より。舟の舟  
 在下。拙れ。段と御覽を。各々。件の樹下。獨徐。立寄りけり。今。這。輝の光景。男  
 女の伴。當社僧。も。瞬。も。せ。ま。ち。目。成。る。大。家。並。て。ま。さ。う。那。坐。敷。師。の。大。胆。さ。二。丈。は  
 かり。枝。も。た。巨。樹。の。下。小。寄。り。とも。必。登。る。ま。の。胡。志。愿。を。罪。ゆ。か。し。た。所。ゆ。ゆ。と。什。生。ま。は  
 や。唾。を。飲。み。沾。ぬ。り。の。ま。り。と。坐。敷。師。の。然。氣。も。あ。は。袂。の。間。と。撥。撈。り。と。合。も。出。ま。鉤。索。を

引伸し又推執ねて。遠ま高院第一の枝に臨て投棧ま。修煉差を鉤索の鉤を件の大  
 枝の横に膝着たり。と。大家齊一歎唱を。それ。その。索。一。條。も。目。正。索。階。子。の。け  
 ま。坐。敷。師。の。横。索。も。足。を。踏。掛。け。身。を。浮。り。と。緑。る。如。く。登。り。と。速。く。と。檐。下。は。蟾。子。の  
 巢と管む。異なる。と。大家。あ。れ。あ。れ。胆。と。淡。し。と。あ。れ。と。小。程。も。坐。敷。師。の。既。ま。た。枝。の。立。ち  
 杪の登り。膝着たり。鮮の匂を。彼此。と。解。回。と。猕猴。と。掖。寄。せ。左。見。右。見。て。腰。不。提。は。茶  
 籠。の。も。と。茶。と。撮。出。し。と。一粒。猕猴。小。銜。し。て。要。時。頭。と。拊。る。程。は。疲。勞。れ。猕猴。の。勢。ひ  
 出。し。逃。ん。と。せ。と。牽。寄。せ。と。懐。不。推。容。れ。と。枝。と。踏。ま。徐。ま。下。り。と。又。索。階。子。を。推。り。と。ま。地  
 上。に。到。り。と。復。索。階。子。を。互。揚。れ。と。鉤。の。外。に。て。落。束。ゆ。と。ま。さ。う。ひ。ま。受。け。卷。稠。て。袂。不。斂。め。て  
 守如の身。邊。不。赴。は。跪。して。大。人。御。覽。ま。され。後。は。猕猴。の。這。里。ま。在。り。聊。氣。力。の。衰。へ。と。那。里。で  
 茶。を。飲。せ。と。最。健。ま。る。う。さ。の。さ。と。の。ひ。る。と。懐。も。猕猴。と。出。し。と。遞。與。を。受。合。守。如。の  
 恙。も。一。猕猴。と。て。満。面。笑。り。坐。敷。師。の。功。を。賞。め。技。を。感。と。適。微。妙。は。汝。が。梅。は。那。依。不

このころ、猿の息絶るとあり、せの術で走らう。が轎隸の甲乙の罪を免る。路をたれ  
たるけり。その上も然る満足を思ひ、思ひをたれ。御高の緯の慌れ、紛れて汝の名を  
聞けり。姓名宿所と具宣せ。後日、御沙汰あるを、かを坐敷師の教、かを宣す。後  
日の御沙汰の願、かを前より約束せ。ぞ。愁訴のよし、今、這里ゆ。ゆえおげんと欲さる  
る。鳥許がまゝ、かへいも。在下、名、物四郎家、踊と放下屋と喚、倣て、門前町の借屋の處  
との守如、ゆて、まゝ、か、等、か、の、下、とも、京上人と推、林、か、猿、か、抱、か、て、鮮、目、上、の、轎、子、の  
頭、ま、か、る、で、物、四、郎、ご、云、と、ひ、う、う、さ、げ、え、あ、ら、う、と、鮮、目、上、六、次、の、折、う、ま、ら、れ、ば、諾、ひ、て、先、轎  
子の、窓、より、を、猿、か、も、伏、容、ま、て、膝、か、措、か、け、木、か、拵、を、抱、か、つ、お、籠、に、仰、る、音、あ、ら、は、れ、守、如、を、あ、ら、は  
果、て、昔、か、か、へ、來、つ、却、物、四、郎、ま、ら、ち、對、ひ、く、や、ム、の、男、汝、の、具、か、稱、ひ、の、見、取、性、急、さ、る  
願、ひ、ま、れ、も、その、功、あ、れ、る、か、姑、か、ん、轎、子、を、駐、ら、れ、具、は、折、け、と、仰、ら、る、愁、訴、と、り、ひ、付、生、さ、る  
る、と、回、へ、物、四、郎、の、笑、い、は、額、に、さ、る、頭、を、拾、は、せ、い、在、下、か、愁、訴、の、人、の、冤、屈、の、罪、を、救、ん

と、か、あ、り、その、故、に、箇、様、々、と、次、圍、太、の、木、天、菟、の、刀、の、鳴、呼、善、の、邪、淫、土、丈、二、の、奸、惡  
總、て、越、後、の、片、貝、也、あ、つ、る、支、の、趣、と、此、も、漏、さ、玉、箇、様、々、と、訴、果、て、又、い、か、う、い、も、惶、れ、と  
ま、ら、上、の、正、考、長、尾、殿、の、先、考、賢、と、か、著、折、屈、む、同、胞、を、御、座、に、か、敷、殿、の、疎、か、ん  
中、か、を、あ、ら、へ、れ、扇、谷、家、と、長、尾、殿、の、い、へ、でも、あ、ら、君、臣、に、は、れ、も、下、社、上、の、ゆ、あ、り、で、近、年、不、和、  
あ、り、あり、を、去、歲、も、あ、ん、和、睦、の、風、声、あ、り、春、は、必、御、對、面、あ、ら、う、と、を、ゆ、え、上、の、ま、素、も、賢  
夫、人、也、義、理、の、聰、く、か、ん、慈、悲、深、く、ま、ら、う、い、の、あ、ら、い、の、と、痛、心、く、も、い、ま、ら、う、と、隔、山、涉、河  
る、訴、の、欲、寄、の、岸、の、ま、け、れ、い、お、白、井、と、片、貝、這、え、と、仰、遣、さ、れ、て、那、次、圍、太、を、救、せ、ら、う、  
あ、ら、御、恩、は、い、下、と、口、説、く、と、守、如、ら、ち、て、そ、の、日、か、ら、い、願、ひ、を、御、帰、城、の、後、ゆ、え、あ、げ、て、異、日、の  
御、沙、汰、及、れ、い、急、ぐ、要、ら、れ、ら、う、と、女、を、諭、し、白、さ、る、と、物、四、郎、の、嗟、嘆、へ、と、噫、薄、情、く、も  
外、か、あ、も、心、長、閑、に、御、教、訓、を、い、詞、が、錯、ら、し、終、願、ひ、の、稱、ふ、とも、空、王、の、目、を、過、ら、う、と、次、圍  
太、の、獄、舎、の、呵、責、を、い、堪、え、命、終、へ、し、壁、言、他、が、今、の、危、窮、の、銀、杏、の、杓、ふ、絆、と、膝、ぞ、見

方より一見、猕猴と亦何を異なり、在下、這義と云ふも、前より固く請まうらん。此、此言、  
さ美り、一見、猕猴と合ひ、猶豫き、這身の願ひ、も、固く、急ぐ、要る、事、多し、と、耳す  
て、あ、然、然、然、も、虚言、ふ、い、ま、み、つ、ら、さ、ひ、あ、ひ、と、詞、せ、う、く、害、め、て、權、を、犯、せ、し、明、辨、理、論、  
守、如、困、下、果、て、沈、吟、ま、る、と、半、响、を、る、憶、も、嘆、息、と、喃、物、四、郎、の、趣、を、の、理、あ、の、今、徳、々  
と、答、へ、和、郎、の、底、意、と、探、ん、為、の、然、ま、さ、お、出、て、披、露、せ、ん、怨、言、と、然、と、慰、ん、で、發、見、を、放  
ち、く、速、速、く、鮮、目、上、の、轎、子、の、頭、の、ま、の、跪、て、却、物、四、郎、が、愁、訴、の、趣、箇、様、々、と、云、え、あ、げ  
ま、を、鮮、目、上、の、諾、ひ、で、又、仰、る、旨、あ、り、く、守、如、を、奉、り、昔、所、を、退、て、物、四、郎、と、招、け、近  
つ、目、今、汝、が、愁、訴、の、趣、上、も、餘、毛、き、思、食、る、御、感、も、持、ま、法、り、を、中、途、の、許、不、便、な、れ  
ど、も、猕猴、と、合、ひ、ま、わ、ら、せ、る、の、あ、れ、ら、ち、置、た、が、る、遮、莫、他、家、の、も、も、帰、城、の、後、お  
管、領、家、へ、云、え、お、げ、お、下、知、の、速、速、に、依、る、言、該、も、あ、る、内、々、の、あ、し、て、景、春、の、掩、怪、の、  
籠、の、刀、白、兄、婦、へ、い、づ、れ、疎、ま、ら、る、は、れ、這、里、の、密、使、を、遣、く、為、す、冤、屈、の、罪、人、を、救、へ、し、

この上、  
這、宅、の、の、任、々、と、仰、付、ら、れ、の、け、れ、別、當、所、を、免、消、息、と、ま、さ、れ、て、汝、と、共、居、す、那、の、使、を、遣、追  
ま、れ、ん、世、の、有、が、死、ん、ん、慈、悲、と、空、中、を、あ、ら、ま、り、七、抑、汝、の、次、因、太、由、縁、の、の、殺、親、族、歎、同、  
へ、物、四、郎、の、感、謝、は、勝、ま、る、の、慚、愧、は、死、計、ひ、の、罪、を、ぬ、れ、ん、命、を、救、せ、る、あ、ん、功、徳、の、猕猴、の、必  
死、を、救、ひ、よ、の、迫、る、優、で、い、と、愛、さ、し、原、這、愁、訴、に、在、下、が、身、を、拘、は、り、し、あ、あ、と、許、訟、人、の、口、ま  
在、り、と、い、つ、違、ま、ま、す、て、よ、く、お、と、喚、り、け、て、連、り、ま、さ、し、抗、は、差、招、け、始、ら、し、と、社、木、の、丹、陰、を、  
ま、て、竊、聞、ま、り、け、る、卿、云、ら、る、ゆ、で、お、そ、く、お、ま、る、物、四、郎、が、後、方、土、居、て、お、ち、も、く、額、を、  
物、四、郎、へ、又、ま、る、と、却、守、如、報、る、を、他、の、則、次、因、太、よ、と、孝、順、を、乾、見、せ、卿、云、と、喚、做、し、の、  
ま、る、去、歲、より、一、七、次、因、太、と、極、ひ、と、ま、く、欲、考、の、の、便、り、を、死、の、せ、ん、術、竭、て、の、上、の、あ、ん、慈、悲、と、  
身、は、ま、ら、ぶ、も、が、る、と、ま、ら、る、越、後、より、山、做、を、深、雪、と、踏、ま、り、て、這、東、路、を、ま、る、も、管、領、  
ま、る、の、御、内、由、縁、も、あ、ら、る、相、識、を、け、れ、神、の、眞、助、を、祈、ん、と、當、社、に、詰、し、事、情、を、在、下  
料、を、知、り、し、祈、り、も、あ、れ、幸、ひ、上、の、御、社、を、あ、り、け、る、御、寵、辱、の、難、難、猴、放、れ、と、  
八代傳、八、耳、集、八、上、  
四、  
八、代、傳、八、耳、集、八、上、

八代傳、八、耳、集、八、上、  
四、  
八、代、傳、八、耳、集、八、上、

恁々と云々。在下即便望まうと。秘候と合てまわせ。この御三郎の奥に。俺身も  
 ころろ一毫も名利を索る所以。この意を查し。あかとのへ亦御三郎の頭を搦。膝を杖  
 の。目今恩人の稟せ。聊も錯ひひ。次園太の人も知り。使者をひひ。淫婦奸夫を  
 誣られて。木天蓼丸のさ。分説立。片目の獄舎。久く敷系。然る上。おん慈悲心  
 中。救せ。枯樹の春。あ。那身の洪福。是御恩。依るの。宜かん執  
 成。願願ひ。守如。故驚。感嘆。考。物四郎。の  
 此。良知。義士。是。別當所。詳。稟上。御神。果。比。彼。俱  
 別當所。伺候。御沙汰。等。飲。告。示。程。由。は。轎。謀。の。是。當。黒。吉。向  
 中。お。轎。子。と。榎。は。と。下。知。大。家。の。め。前。馳。後。従。の。歩。列。の。乱。春。の。遊。系。花。の  
 袂。か。ま。ま。本。社。と。投。て。徐。々。と。外。視。も。ゆ。俱。一。た。け。既。と。鮮。目。上。の。轎。子。の。過。て  
 陪。伴。さ。あ。と。ま。る。た。迹。は。送。り。鯉。三。物。四。郎。ち。ち。對。ひ。て。あ。ひ。け。る。は。お。の。洪。恩。後。兄

弟親類とも。這親切及んや。今。越。後。か。る。由。兄。哥。々。次。園。太。が。故。子。あ。で。再。沙。波。女。小  
 い。で。求。め。折。お。の。恩。義。と。報。知。と。俱。亦。復。這。地。未。來。て。飲。ひ。を。演。べ。願。ひ。伯。所。の。坊  
 名。も。具。知。の。あ。ひ。と。と。物。四。郎。の。あ。む。さ。え。然。る。と。せ。れ。俺。の。和。主。と。相。識。る。ね  
 と。次。園。太。公。相。の。あ。ひ。も。名。さ。は。使。氣。あ。る。と。預。も。少。知。り。然。る。も。公。相。知。ら。れ。大。田。大。川  
 二。男。士。の。俺。莫。逆。は。友。さ。那。木。天。蓼。の。名。刀。大。田。と。竊。刺。んと。あ。る。賊。婦。船。虫。は。さ。ら。で  
 廿。苗。害。竟。次。園。太。の。身。係。り。縁。由。と。知。さ。り。日。は。是。非。も。き。け。料。も。も。信。は。て。二。臂。の  
 カ。と。書。せ。大。田。代。り。と。那。公。相。を。救。ん。と。の。所。為。る。と。伯。所。と。告。て。訪。う。と。も。後。日。の。謝。義。を  
 何。せ。ん。足。は。の。と。と。次。園。太。公。相。の。傳。へ。と。其。は。て。お。の。形。因。と。恩。と。甘。美。義。使。小。敬。馬。鯉。三。郎  
 感。涙。坐。進。む。覚。は。三。尺。帯。を。夾。ま。る。を。拭。を。後。合。り。と。額。を。拭。ひ。四。下。と。さ。る。原。末。お。ん  
 身。の。那。二。大。士。の。友。達。で。と。せ。一。飲。一。家。見。ゆ。仇。ある。は。あ。の。他。郷。中。も。這。由。縁。由。と。憶。は。資。助。を  
 必。し。祈。る。不。感。應。速。く。は。當。社。の。神。の。眞。助。の。あ。え。是。は。跡。も。お。の。身。の。と。さ。は。詳。し。ま。は。は。

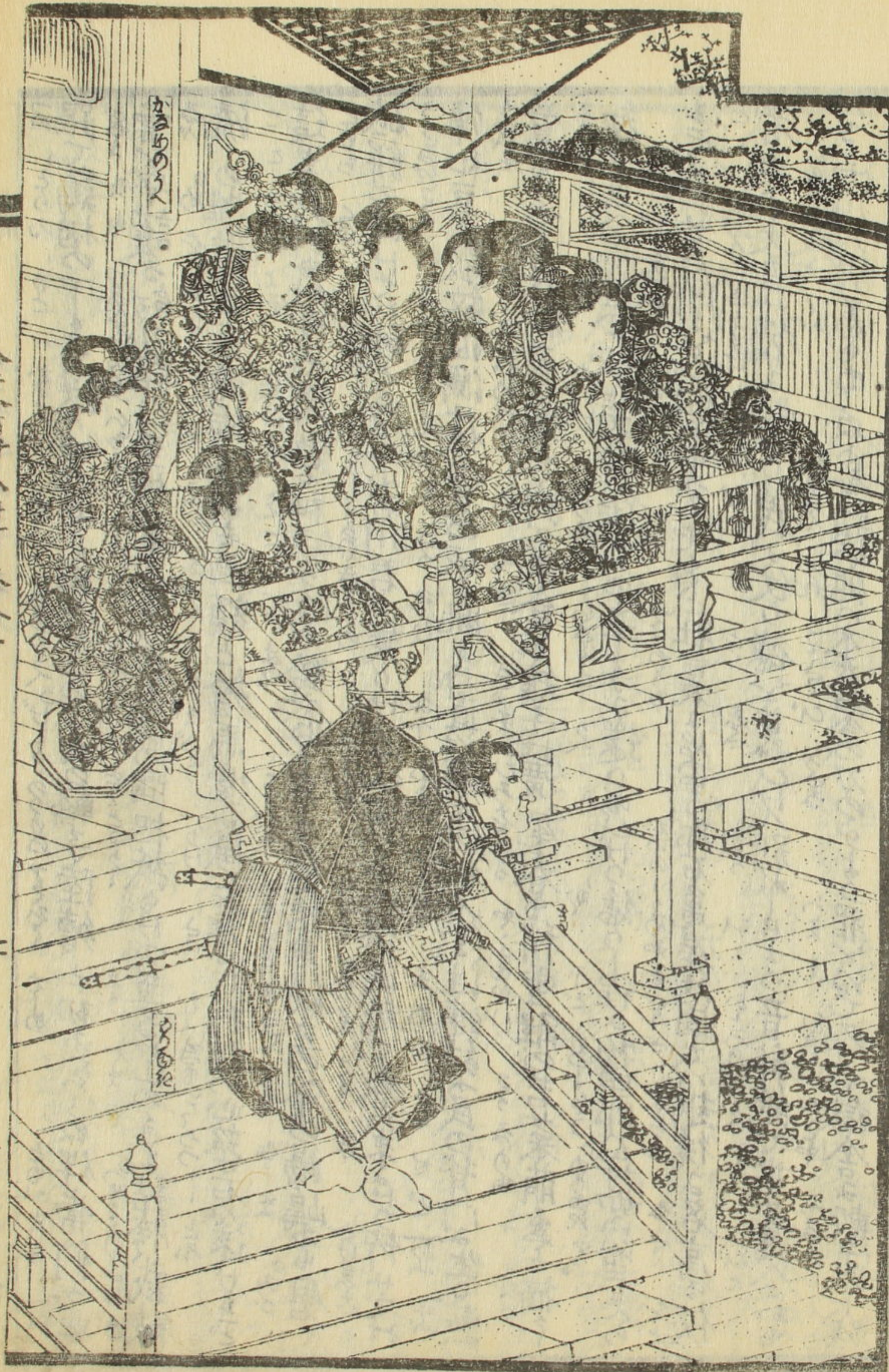
と物を物四郎の推禁めてその亦益多に牙敷金那小文吾們的三土主と俺友垣と結びよと知  
らるも緯の済むを。這里を時と稔き。善の急はと世話の中へ快別當所へ赴きて上の  
御沙汰と等とそとれやと論。人の信小朝三件のよと向不及物四郎と共侶小  
別當所へ赴きて權佐守如小伺候のよとゆえあけて下知と候と一晩をくら日景斜まう。此  
後さかふと守如の端近う歩く事。物四郎と卿三と召よせて却り寄る。御高のあはれさせ。如  
小千谷の御民次團太と助命の願ひ物四郎が猕猴と合。今功願で聞食容られる。因  
目今這所まで。伴當妻有復六次通小仰付られ。又消息と齊し。片貝遣さる。卿三  
次通小恨と那地小能歸りて。片貝殿の沙汰を俵へ。又白井の景春主。越後より路近  
けれ。御歸城の後管領家のおん聆子連。又下知とて。更亦別人と遣さる。と仰らる。片貝  
并小白井の城。御消息の又旨。小千谷の民次團太の當館御舊領ののれ。あはれ。那者不  
慮小罪ある久く。林示獄せられ。知召より。さう。小羊來御信仰。浅く。あはれ。湯嶋の

神の。夜の。夢。あえ。あ。い。て。箇。様。々。の。示。現。あり。これ。より。次。團。太。が。冤。屈。の。罪。と。知。召。れ。り。  
特。不。便。の。思。召。は。る。次。團。太。と。赦。免。して。罪。多。民。を。罪。多。民。の。神。と。入。の。切。手。は。稱。ふ。と。の。  
家。の。之。敏。系。昌。せ。忠。生。の。旨。是。実。之。徳。を。う。と。と。竊。小。仰。遣。さ。る。若。們。の。受。を。あ。ら。わ。り。て。  
若。爾。書。以。し。の。物。四。郎。の。竊。を。あ。ら。わ。り。さ。る。別。誤。あり。舊。所。に。退。き。て。御。下。向。の。折。等。守。  
ね。外。の。書。を。と。最。ま。示。ま。詞。の。兩。露。の。恩。受。る。轍。の。卿。三。江。小。還。り。も。不。勝。の。歎。ひ。物。四。郎。と。共。  
侶。小。言。兼。ま。う。恩。と。拜。て。罷。出。ん。と。せ。し。程。妻。有。六。郎。之。通。の。弟。さ。ら。は。復。六。郎。次。通。小。本。貫。  
越。後。の。と。今。這。使。价。小。擇。れ。行。社。衣。も。火。速。の。内。命。伴。當。四。五。名。徒。へ。と。外。面。へ。立。出。  
たり。守。如。遣。ま。る。れ。き。ん。と。妻。有。生。寫。の。越。路。の。安。内。小。恨。せ。ら。る。卿。三。の。這。里。ま。あ。と。の。小。次。  
通。遠。く。走。近。り。守。如。別。と。告。て。卿。三。小。密。使。の。よ。と。言。示。せ。物。四。郎。も。恭。く。杖。を。對。ひ。て。  
卿。三。が。去。向。と。漏。れ。値。遇。の。縁。も。く。還。る。由。別。の。一。言。次。通。の。小。恨。小。卿。三。を。わ。て。東。三。春。高。  
寒。一。掃。雁。四。十。日。先。の。越。の。旅。高。峯。深。雪。さ。か。と。想。像。の。生。き。や。と。物。四。郎。も。後。小。

八代傳八景卷八上

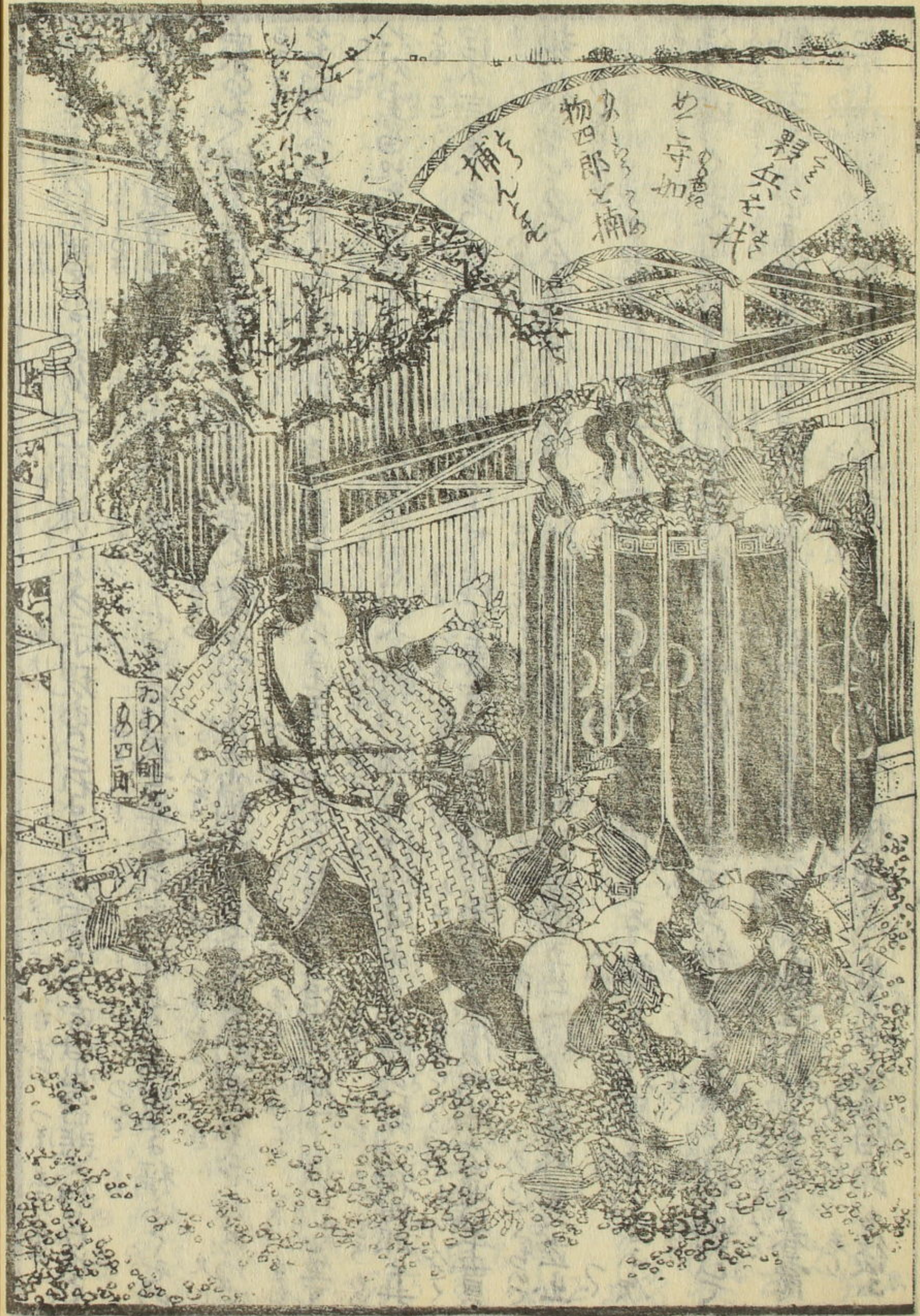
六

の次集卷八



八代傳ノ眞卷ノ上

七



八代傳ノ眞卷ノ下

八代傳ノ眞卷ノ下



跟て鶏栖の下まで送りけり。早く鮮目上の下向の轎子陸續と初めぬ。伴當們が非常を守護る。劔刀路一里。秋二重。あまの三里。隱の隅。把紙のけり。垂雲山のみ。結勝裁被流の雌雄の老松。飛梅を寫し。画額と繪馬堂。掛て。憑む。村胆の心。築石。遠げ。里。こ。こ。ま。の。よ。そ。ぬ。さ。と。こ。こ。て。ま。か。な。あ。か。ま。の。ゆ。ま。て。ま。あ。ま。

這里は北野の外。幣軌る神子。さ。の。ふ。鈴。を。鳴。事。ま。は。庭。裏。湯。立。の。釜。の。湯。嶋。も。磨。く。破餅の碎けて。砂とる。ん。小石川。君が。乗り。けん。牛。ひ。ひ。く。や。霞。の。関。越。て。春。の。ま。け。の。折。せ。の。浦。和。豆。の。皺。紋。波。瀾。在。土。見。の。坂。は。眺。ま。へ。直。麻。生。の。御。近。之。注。連。結。の。民。の。背。門。に。生。る。數。

嘗のけり。秋初音。愛さ。野。未。食。る。雉。子。は。廣。尾。春。も。稍。雪。解。の。若。甘。菜。萌。る。と。摘。く。知。り。く。あ。へ。も。昔。春。て。申。非。交。る。陽。炎。の。五。十。子。子。遠。り。ぬ。ひ。け。り。悠。々。程。の。物。四。郎。守。如。留。を。ら。

ま。そ。又。只。昔。所。の。做。も。も。く。比。ぐ。と。肚。裏。は。あ。ま。う。那。石。龜。屋。次。固。太。越。後。は。名。高。る。俠。者。也。小。文。吾。莊。介。好。あ。の。義。は。仗。り。德。を。慕。ひ。け。り。別。れ。日。の。音。耗。絶。て。世。ま。あ。へ。ん。と。あ。ゆ。

つ。大。川。大。田。美。も。あ。ぬ。ぬ。斬。斬。他。の。木。夫。甘。菜。の。刀。の。よ。り。罪。を。浴。て。久。く。獄。舎。に。敷。糸。れ。一。弦。

けの料をも。知。り。て。の。大。厄。と。救。ふ。の。據。と。る。方。の。奇。る。る。日。裏。は。他。の。大。士。の。那。窮。窮。院。と。極。

ん。そ。と。と。心。と。畫。し。け。ん。の。古。又。終。成。ら。ぬ。と。も。大。さ。る。ぬ。心。の。報。い。を。致。せ。し。は。只。是。大。川。

大。田。子。代。り。て。竊。は。草。と。結。び。之。然。る。も。那。卿。之。心。真。実。る。今。番。の。奉。勤。世。の。萬。卷。の。書。成。

讀。む。の。尊。大。と。世。事。の。疎。く。徒。廣。博。を。誇。れ。も。異。朝。の。の。之。細。く。も。皇。國。に。故。実。の。

夢。の。も。知。ら。ぬ。口。の。經。傳。の。語。句。と。解。け。も。心。術。の。一。文。不。通。の。俗。と。去。る。と。遠。く。も。あ。は。れ。ぬ。その。

幼。状。の。傳。の。昔。一。く。ぬ。ぬ。世。の。あ。ん。と。那。卿。之。心。比。し。は。實。小。雲。壤。の。差。別。あり。是。と。あ。へ。の。性。は。美。の。

自然の美。ふ。七。造。を。飾。ら。る。字。で。後。の。才。は。知。る。文字。の。同。か。る。の。の。て。至。善。の。人。の。の。の。と。和。

も。漢。の。昔。も。今。も。忠。臣。孝。子。義。士。節。婦。の。文字。を。も。ま。は。い。学。ぶ。は。優。る。世。の。人。の。人。の。上。

る。人。へ。り。然。が。と。京。の。氣。質。の。其。首。至。る。尋。常。人。の。よ。く。学。ぶ。あ。は。れ。ぬ。性。は。美。

る。と。と。と。み。づ。ろ。番。で。学。び。ぬ。思。ふ。の。の。の。之。思。ふ。し。七。心。あ。れ。ぬ。理。義。を。辨。せ。ぬ。眼。の。れ。ぬ。一。書。

も。の。讀。め。讀。ま。る。故。の。理。を。疎。く。理。を。疎。け。れ。ば。行。心。と。知。る。よ。く。を。れ。ぬ。羞。も。せ。ぬ。車。小。と。免。れ。て。錢。あり。

勢ひありとも醉るがごとく生れ来て夢のてく小死人の言足らざる所の性の美なる故のゆゑに学べを  
 ききあつて ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 氣質より更め行ひて新なる後竟る稍良善の域に至り性の美なるゆゑにその行ひの  
 うらみ ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 美人の学ひては元のよるべ性相遠く習ひ近くと孔子のいふは是なるべし掩ひ一個の師表もろく  
 こつと ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 幾も自得あらはるる文字武藝の入るるもいふはゆゑに所を治むる寛家と云ふと與ふる三人を集む  
 るありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 坐敷る大刀の長は皆消し百轉て果敢るは技に幸甚と渡鳥る秋よりを三冬も這里の草枕  
 ふね ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 旅宿の春と迎へて這身ひさる春るるぬの息苦むと争何のせん形なる世の去住は誠と照  
 つたひ ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 去月も日もありともいへて是景足る胸の有想無想千早振神は知るやといへば口出さるは前  
 ひさひさの ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 十條も思ひて疑ふは社士が惘然とて鶴立ちる後方は靦小難兵四五名左右齊一聲をうて振閃  
 あつてひさる ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 へすへす光と物とせざる物四郎物々として身と沈と足と拂へ此彼俱に助斗とて倒れり程あり  
 せよと ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 甚又左右より組むと閃と引外を修煉の剽捷執鳥鳥のてく寄ると蹴倒し片倒と巻か牙の  
 いちよつと ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 稻妻の藍尾を走る小異るる蟻多加久繩捕索の甲斐ををけるも交れ足も乱れれば幾番

とく投伏せしつ又起て寄るといれは糸の組む組むは打惱されて平張るもあり臥せもあり  
 どういれ ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 泥も吻も射るも骨も膾もあつて後と氣三撲傷の乾熱痛生る心地にせざるの思ひつけられ  
 ののしり ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 正まぐ物四郎の初より組捕の下より此も推れも飽も引拉れでも怒氣理ねば声高から小噫  
 りふせん ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 理不盡る緝捕三昧俺身取一毫も罪ありとも覚えぬその義も演ぜも吹て求め疵ふ  
 こり ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 微る牧地と霞の中も魂あり身も賤くとも阿容々々と非法の索ふ掛られんや付麼誰殿の下  
 が ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 知るを頭人ありとも知れよと敦園悍く喚れは皆立在む一個の武士あり石燈籠の蔭より出  
 たり ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 その頭人の這里あり通愛する勇士の本事今を慥に看届けられたるを以て近づくとされは是  
 正と ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 別人も河鯉権佐守如き當里守如し物四郎より對して勇士姑く怒りも鎮せ俺もよと  
 聞き ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 听ねか 御高和殿の進止辨舌忠對智慧其藝術皆足人の及ば所才坐敷大刀の刃のく  
 せまり ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 茶も買て足れりといふは小畚量に入るるといふ其も多猜せかある不訝しむ老樹に登るお  
 るいすこ ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも ありとも  
 索階子に準備あり備橋と踰堀と兼る強人ありとも疑ひ其首は起りいふ言を詔せ

試す。其の功を功と爲人の與ふ力を盡し七名利の機念を去る。其の行はるる處及び疑心のづから氷解して是清白の義士と爲ることを知らるる飽を武將の本事と辨く後山山談を生じて相譚んと爲るるはあつて。竊に親兵あるをさして聊虎威を犯さず。年々倍々俊傑の徳民に回降るといふも。必是由緒の武士の世と濟ぶるをあらん。本心實名懸て。不知の。俺も亦一大事と明て。滿心たは密議あり。是併其が心ひらの所爲る。俺賢夫人鮮胃上の内命ある。この是。這美と美引のんや。と。滿心詞の慇懃。初は異。信尊信礼讓亦他事も。く。え。か。物四郎つらくと。所果貌を改め。必はけね。既大。夫の賞美。不之分。過。古の人の詞。女已を喜ぶ。の。為。を。貌。士已を智。の。為。不。死。と。の。下。不。肖。と。の。既。小。夫。知。れ。か。死。と。の。辭。去。死。と。の。取。を。什。生。見。在。下。も。大。望。あ。り。い。ま。の。遂。ま。子。の。道。を。重。要。ま。し。て。人。の。大。事。は。與。し。則。是。不。考。之。御。用。の。所。以。知。れ。ぬ。も。輒。く。御。意。不。後。ひ。か。う。言。は。義。を。查。し。ぬ。う。と。推。辭。を。守。如。推。復。

考ての。趣然も。あり。多。考。の。百。行。の。基。本。と。行。ひ。是。より。先。考。ま。し。親。は。仕。て。後。忠。君。の。移。去。と。君。は。仕。て。後。信。朋。友。の。移。去。と。親。の。為。を。推。辭。と。強。て。去。る。ま。れ。も。事情。の。案。ま。る。若。是。親。の。仇。あ。り。ま。し。宿。志。と。果。ま。る。身。を。愛。し。骨。を。惜。ま。て。推。辭。を。あ。ら。は。し。や。綴。それ。の。の。あり。と。也。和。殿。の。智。叡。各。武。勇。と。て。愆。あ。ら。ま。あ。ら。今。俺。密。議。と。美。引。を。ぞ。俺。も。亦。和。殿。の。與。ふ。恩。を。分。り。方。と。勅。せ。然。れ。も。所。と。の。飲。と。潛。見。向。へ。物。四。郎。の。沈。吟。は。嘆。息。を。て。大。夫。は。是。俺。與。に。説。客。を。さ。り。あ。り。在。下。宿。望。あ。ら。も。切。新。何。劇。子。の。義。侠。の。做。り。て。名。と。好。む。是。裏。在。下。義。を。結。ぶ。異。姓。の。弟。兄。の。を。亦。ム。們。の。を。辭。別。れ。親。鷹。の。旅。宿。の。春。秋。を。悠。端。に。く。弥。れ。ぬ。然。れ。も。宣。ま。る。御。用。の。筋。を。示。さ。る。之。這。身。の。慥。を。あ。ら。御。意。不。後。ひ。か。う。言。は。初。め。と。自。示。を。如。し。美。引。を。去。る。云。云。の。の。許。さ。る。い。ん。や。と。向。復。され。て。守。如。の。ち。合。笑。の。點。頭。を。其。の。勿。論。の。ん。か。然。れ。も。機。密。を。示。さ。べ。い。ま。も。這。里。不。便。と。の。後。方。と。な。れ。御。物。四。郎。は。投。ら。れる。雜。兵。們。の。身。を。起。し。



館も程なく御心解けて初めわづらひせぬ。是よりいふは、縁連の程の事。是よりいふは、縁連の程の事。
 風も立てて、直の媚るも、勢も、志ある輩。縁連が素生、徳と、知れる。
 名を更姓と改め、龍山免太夫と名生、只る、龍山の竹と、除、逸、東太の逸字の、東、東字、
 削去して、白井の城へ、白井の城へ、白井の城へ、白井の城へ、白井の城へ、
 切まじ、御もく、倒他の中ら、罪なきも、黙け、他御へ、走るも、も、程、去、去、
 白井の長尾氏、先非と悔て、當家へ、帰順の一、議あり、忠臣、
 獨縁連の、秋、景春、和睦と、做、
 拒し、利害と、述、君と、迷、

連の、便り、又、哄、誘、景春、帰、泰、願、虎、狼、野、心、
 も、又、叛、他、と、宛、屬、北、條、氏、と、和、睦、
 復、七、七、勢、十、倍、
 號、計、策、小、優、
 諾、諸、老、臣、御、沙、汰、
 誘、昨、日、仰、付、
 老、臣、の、這、議、
 駁、真、意、
 思、召、
 年、來、信、
 那、丸、猴、

思召す。わかれの望ま儘と。這所も。越後密使と。立させ。那次圍太と。助命の一議を。仰遣され。その意味。さういふ。和殿が。幾遍請ひ。まとも。然速き。御沙汰。わん。や。徳て。又。御下向の。折。竊。某。言。言。言。言。和殿の。武藝。と。試。小。の。器。小。勝。たる。脅。力。則。姚。萬。夫。當。當。の。勇。士。多。り。と。堅。定。め。た。憑。一。は。竟。不。機。密。と。う。ち。誦。相。譚。ん。と。い。ひ。秘。事。の。那。縁。連。の。多。か。他。が。相。摸。へ。首。途。の。羽。音。朝。用。と。交。え。る。既。道。該。を。穿。知。り。る。老。輩。ま。く。眉。と。顛。め。て。老。後。べ。い。さ。ら。ず。獨。大。塚。を。大。石。父。子。意。傳。を。長。尾。景。春。の。姻。者。な。れ。も。此。條。が。ふ。心。あ。り。や。件。の。密。談。の。預。り。と。家。臣。仁。田。山。晋。五。と。縁。連。の。後。と。遣。走。し。て。准。備。せ。し。這。它。縁。連。と。共。侶。の。那。地。小。赴。く。副。使。の。景。春。の。大。山。道。節。の。敷。せ。る。寔。門。三。宝。平。が。弟。龜。門。鍋。介。既。存。越。杉。駝。一。郎。家。男。越。杉。駝。二。峯。騎。崎。惡。四。郎。猛。虎。們。縁。連。と。正。使。と。比。彼。共。小。武。士。五。員。雜。兵。二。百。名。と。交。え。る。密。談。と。云。ふ。即。是。入。和。殿。の。今。宵。有。る。便。宜。の。処。伏。願。れ。那。縁。連。と。揮。蕪。の。敷。果。一。の。り。相。

摸へ使節の空とる。皆徒ら引返さる。中。小。騎。崎。惡。四。郎。猛。虎。の。器。械。合。と。交。雙。に。獲。三。十。人。の。脅。力。あ。り。と。も。年。來。數。度。の。軍。功。あ。り。と。も。あ。心。術。奸。佞。を。縁。連。の。腹。心。に。これ。よ。り。の。寔。門。既。存。越。杉。一。峯。仁。田。山。晋。五。不。至。る。まで。武。藝。云。々。尋。常。な。れ。も。縁。連。既。不。敷。せ。る。勢。以。頭。を。蛇。の。口。駭。諺。さ。度。と。失。ん。の。折。和。殿。へ。引。外。て。今。立。退。れ。か。恣。做。ま。と。死。の。大。敵。多。う。も。危。死。と。る。床。下。に。さ。れ。矢。砲。あ。り。し。ば。揮。蕪。の。敷。を。か。ら。う。又。縁。連。が。相。貌。の。恣。々。箇。様。々。々。他。の。正。使。の。多。い。騎。馬。を。第一。番。あ。ら。ん。和。殿。の。受。と。ら。る。ゆ。え。と。敷。果。一。の。り。千。金。と。り。報。ひ。と。見。殊。不。猛。可。の。密。談。を。途。中。の。齋。輕。微。な。れ。も。あ。る。且。且。の。費。用。と。も。做。し。の。心。と。可。寧。不。機。密。漏。れ。其。見。示。と。違。く。懷。の。紙。糊。る。金。十。兩。と。種子。嶋。の。小。銃。と。出。し。卒。と。し。これ。を。贈。り。け。介。程。小。物。四。郎。の。膝。と。枕。の。耳。と。側。へ。听。上。約。半。响。あ。ら。し。御。駭。け。心。勇。ま。り。滿。面。連。の。ふ。ら。ち。笑。れ。る。致。ひ。い。ふ。ゆ。え。と。推。鎮。め。は。く。送。由。る。听。果。形。と。正。し。る。守。如。對。以。て。の。事。を。先。馬。の。二。條。の。異。談。を。美。知。仕。の。縦。



八代傳八軍卷八上

十四

八代傳八軍卷八上



八代傳八軍卷八上

塩濱岡麻鬼堂  
あまのまの  
 まんまじり

此と  
 文の  
 下の  
 ええり

八代傳八軍卷八上

憑れなきとも。那縁連の年許。尋索たる。親の仇。方僅料も他が所在。眞ま  
 知るる。之を。敷も果た。便宜なる。武運。稱ひ。一期の幸。以。何事。是。復。死。今  
 之。明。世。俺。素。生。坐。敷。師。放。下。屋。物。四。郎。と。告。し。這。地。の。橋。居。と。寛。家。と。索。る。重。幸。時。の  
 假。名。定。は。千。葉。家。庶。流。の。家。臣。栗。飯。原。首。胤。度。を。送。腹。の。二。男。父。胤。度。を。枉。死。の。後。相  
 模。州。足。柄。郡。大。阪。村。を。生。れ。し。る。村。の。名。を。家。跡。と。し。大。阪。毛。野。胤。智。と。喚。做。し。の。を。以  
 之。然。に。強。裸。の。内。より。て。俺。身。兩。個。の。讎。敵。あ。る。一。人。を。千。葉。家。に。逆。臣。馬。加。大。記。常  
 武。志。を。父。子。夫。婦。從。類。を。の。已。亥。の。年。の。夏。五。月。十。五。日。の。真。夜。中。比。其。本。則。單  
 身。を。威。敷。平。果。た。り。れ。も。那。縁。連。の。這。年。來。何。首。小。在。り。と。知。る。よ。の。を。回。鏡。し。も。認  
 ら。ぬ。心。と。苦。め。身。を。窶。と。あ。り。限。り。と。思。ひ。小。夫。運。を。小。循。環。と。求。む。と。仇。の。面。鏡。來。歷  
 改。名。任。所。を。今。詳。し。告。げ。し。年。來。祈。り。神。明。佛。陀。の。冥。助。を。り。然。然。然。を。の。姓。の  
 又。妙。一。大。奇。事。造。化。の。加。減。行。心。を。天。定。り。人。小。勝。の。時。到。り。と。の。ひ。つ。べ。信。ま。さ。

大夫の計略。是。その。君。の。與。る。も。某。が。行。ふ。所。の。酒。親。の。與。る。も。一。金。を。り。と。受。死。や。男。士。の  
 仇。と。敷。も。及。び。て。名。告。破。て。斬。戦。し。其。首。小。雌。雄。と。決。せ。し。と。矢。炮。を。も。敷。も。捕。ら。捷。の。ふ  
 とも。同。恥。べ。然。れ。に。這。鳥。眼。鏡。の。も。く。も。更。へ。缺。ね。も。是。と。も。受。ま。つ。る。長。者。の  
 贈。り。の。を。空。お。あ。り。血。氣。の。三。男。を。誇。り。と。や。り。い。ま。入。因。り。と。れ。を。留。め。措。て。敵。騎。馬。を。り  
 馬。を。斃。死。し。七。反。落。さ。せ。後。小。敷。も。下。着。的。の。則。縁。連。の。を。餘。も。怨。み。と。い。へ。とも。聞  
 戦。の。沿。習。中。の。同。日。に。死。時。宜。し。く。成。敷。も。果。た。る。も。あ。ん。飲。這。毛。を。許。し。め。し。と。詞。を。も  
 去。く。潜。の。死。女。を。件。の。金。と。返。さ。せ。守。如。連。の。小。感。悦。を。也。杜。る。か。の。銳。志。胆。勇。必。是。世。殘  
 潜。小。後。傑。る。ん。と。逆。り。と。さ。る。石。濱。の。栗。飯。原。氏。の。子。を。ん。と。知。り。密。謀。の  
 其。人。を。り。鬼。神。不。測。の。良。縁。思。臣。が。孤。忠。孝。子。に。復。讐。言。此。彼。一。事。兩。用。る。志。願。成。就。疑  
 非。如。縁。連。る。も。夜。も。雷。門。鯉。崎。越。杉。路。三。仁。田。山。晋。五。亦。至。る。皆。是。阿。當。黨。の。小。人。を  
 國。を。賣。り。栄。利。を。樂。し。機。萌。る。を。惜。む。足。ら。根。と。鋤。り。て。葉。三。枝。を。断。り。と。好。ま。る。



八犬傳ノ事ノ...

一、このれども深入る。猶全勝と承んて欲行心あり。...

水滸畧傳

曲亭主人著

柳川重信画本集六卷 来癸巳冬十二月發販

この書ハ水滸傳を百八人の好漢の畧傳を編述し且出像あり...

水滸後画傳

曲亭主人譯文

出像 柳川重信画 第一輯五卷 近刻

この書ハ明の鷹宕山樵が水滸後傳四十回と國字小譯通俗と加ふ續像と

八犬傳ノ事ノ...

以て且後傳の趣向の立ざる宜きものあり公翁とて筆削して全美の一書なるべし。  
 然れ後傳の見たる前傳の好漢三十二人の公孫勝呼延灼関勝朱仝  
 李俊李忠戴宗燕青孫立孫新阮小七柴進朱武黃信樊瑞樂和童威童  
 猛宋清裴宣穆春蔣敬蒲讓金大堅安道全蔡慶杜興楊林鄒淵凌振  
 皇甫端顧大嫂是之内中前傳第百二十回の死と云ふもの七人の呼延灼  
 関勝阮小七柴進の載宗と李忠と杜真と就中載宗の靈徽宗帝の夢  
 見え御導とせしもの又後傳の載るの皆彼作者の誤をれは錯誤を補  
 更て前傳の死するもの又後傳の出るもの更亦批語をせし彼拙劣を補  
 見え譯しざるゆせある所の通俗本と同くかた唐山熊疎多の姫御達の前  
 ころて公の文鄙俚なる伏皇を賜顧の君子先の書名と認て用板の日と俣

印行書肆

江戸 大坂 大坂  
 丁子屋 平兵衛  
 河内屋 長兵衛  
 河内屋 茂兵衛

南總里見八犬傳第八輯卷之八下套

東都 曲亭主人編次

第九十回

司馬濱小船虫淫と鬻く  
 閻羅殿小牛鬼賊を辟く

話表賊婦船虫の去歲の夏越後にて大川莊介義任小酒頼一們が撃ま下  
 折獨媪内を伴々遠く武藏へ逃ま來の豊嶋郡司馬濱小程近き谷山の頭  
 あり人の白屋を購求めく才と膝を合さしより馳く媪内と夫婦ありて生活もせむ  
 と半年許りける程不義の貯禄をくも竭くせん術をかく苦死隨ふ夫婦竊小商  
 畢て又大悪吏と計較り是より七船虫十字街妓を打捨て夜毎濱邊立りの  
 客と披る與のまむもの懐小東西の兵構合の折唇をまき舌と啞断る殺  
 者尸骸を海小棄る媪内の妓有るなり初よりその邊に在り尚小及ぶるのわれ

カと勅一拉ぎく走まるとあり。於任ても人の知ざりけり。以わらふ這四下ハ塩竈のこ  
 ち。家ものもなほ做まこも。久かき。這同惡の虎夫狼妻。天羅の中あり。夕  
 罪も殺ひも。波の漕ゆ。延重の船を。今宵も這甲未張る網の獲も。夕  
 間懸脚高蟾子の蓋垣。夜風と防ぐ浦寒。塩木竊と。焼明と火光を花の  
 夕化粧曇らぬ月の假眉。甲夜闇の黒木綿。三十振袖四十嶋田五十の銭も。取  
 らせ立く見居く見掛く見る尻の齋ハ潰て。口用逆底疼と。毎も。地出する  
 浮き鳥の宵遊びの往還の欲得と。俵多。然。這司馬濱。い。鄙久。漁村。けり。道  
 奥准右の廻國雜記。の書。宗祇の。藻塩の煙。名を。船。積む。をの  
 浦人と。詠。下。て。當時の光景想像。下。定。無。下の村落。る。這浦人の生活。の  
 只塩を焼く。の。わ。を。釣漁。便り。な。ね。世。之。蝦。之。雜魚。と。今。も。名物。と。は  
 這浦續。と。交。える。品。革。馬。驪。洪。谷。の。莊。ハ。當日。鎌。倉。路。次。る。よ。府。布。五。十。子。大。澤。の

廿社。赤坂。の。皆。這津。遠。く。諸國。の。海。船。折。々。歌。り。て。交易。を。做。ま。る。有。任  
 け。ま。る。日。暮。ま。て。友。喚。ぶ。衛。の。声。ま。る。波。濤。り。外。寄。る。の。か。小。船。中。駭。駭。の  
 ろ。つ。這。瀆。水。好。色。多。彼。此。の。社。伎。們。老。父。知。り。て。世。珍。を。現。在。と。多。つ  
 接。入。を。れ。果。敢。を。錢。を。食。も。る。の。ま。り。或。ハ。又。女。賊。て。旅。の。人。の。掖。留。れ。て。初。ハ。駭。ま  
 果。ハ。亦。他。國。会。を。棄。せ。ま。る。日。全。夜。發。以。似。け。る。色。小。燈。香。の。惑。ひ。て。腰。纏。ひ  
 盤。費。と。命。と。喪。ふ。の。の。あり。廻。國。雜。記。の。淺。草。野。路。の。孤。屋。の。石。の。林。の。虛  
 情。の。人。と。殺。ひ。ん。昔。の。徳。と。世。の。人。の。後。ま。る。や。情。由。之。知。り。て。人。中。の。大。蟲。中。の。毒  
 蛇。世。の。ま。る。か。る。の。の。と。く。怕。と。る。の。の。の。り。は。ま。是。後。の。事。を。語。次。の。寫。の。時。ハ  
 文明十五年正月二十日。の。か。と。船。虫。の。け。亦。點。燭。時。候。の。宿。所。と。わ。瀆。邊。の。寺。に  
 客。を。俵。の。左。右。の。方。九。尺。の。若。草。月。の。佛。堂。の。二。座。並。び。く。建。り。ける。左。の。地。蔵。并。右。の。ハ  
 閻。魔。の。木。像。の。り。至。德。の。年。間。院。御。宇。の。の。人。貝。塚。多。光明。寺。の。聖。聰。上人。遠。地。を

過りぬ折廻引釣漁る浦人們小輪回心教の理りと叮嚀小説論してとく冥福を  
 薦めぬ六浦人們月毎小錢を集め年々麻生。竟小二座の佛堂を濱邊小建立立去  
 する地蔵と閻魔六佛二體慈愛南教異をとも俱能化の教主あり世小罪障  
 三つわりの元七墮獄の苦みの。閻魔の廳より呵責を受く水劫浮む瀬わるとり又  
 昔惡むもの先非と怕と懺悔と心と慈善と轉せ一日地獄小墮るるこころ地蔵  
 井小救まて竟見天堂の快樂あり些小こころ惡事とせ小惡の稍盡ま大惡と  
 多りて免る路多。些小こころ善事と忘りて小善の良積と大善とあり果報  
 あり然地獄の天堂の閻魔の地蔵のあり皆心の致を明とせ他小水むとく  
 らその心小求ま佛とあり餓鬼とあり世人釣漁と做せもの宮戸河多濱成弟兄  
 近く淀は弥陀二郎あり。ある佛意小慍ふの八日毎小江河小網と却て殺生の罪消滅を  
 する足小暇あるの口小佛名の唱易かり。這美と忘るる與小とて那上人の説薦めく建

多き佛堂を誰の疎齒ぬら然然と船虫と堀内の一毫の忌憚る地蔵も  
 わんとの佛堂の間主と在る客と引く邪淫と汚穢とをさむ人を害と財と奪ふ  
 罪惡越小極と。其の戦世の輝多と法度邊鄙も届くも神を怒り佛も憂ふ  
 惡被那身及ぶ天道の亦賞罰小私わりといまの。同話休題折る彼此の社  
 伎の廿日正月をればとく漁戸農家のさき坊費小使を。年期未滿の小厮を遊ぶと  
 肯とる日多。然ても調戲と嫖蕩子の那十字街妓を挑んとく。来り狎む木兔圍の  
 木兔引る物狂。前顧執頼單多。前後を争ふ鎗頭尖く突入る客出る客  
 連放菟言鐵炮のたりの飛ぐ天外小登欄て。復の夜を果敢と契る草の床草の  
 枕に草筵片布く袖小程香の半の糞をと人の心くく。憎くぬ敵ひ小麩射香の臍  
 樞錢と二百部舎と別る。這全盛の甲夜過く人迹稀き。比連立ふ。近  
 村の老首長農圃保甲齡八四十といを傳ひ籠張燈を引提。ち譚ひの近けを

船虫と喚びく。喃々刀祿達と寄せると招けども此も阿容む立寄く是が  
 那評判高き奴も共侶は張燈抗く船虫の真容半面はくくと鏡るて約莫  
 半响許感の勝る面色も錫右衛門主妙を乃者世間の評判を耳に聆けども  
 刃の初く往還の人の情態を商ふ十字街妓の現罕多花の顔月の眉可惜標  
 致をりちる。忘非類も世渡りの仕生多人の果をんとし領錫右衛門んか  
 多し嗟嘆し七帳八羽の旨かど浮世の果の小町中大雨の溜み金魚あり塵家も  
 生か美人草を流わむ近屬或の噂も浪速津の片頭は夜々十字街妓の  
 中一個の美人婦人あり何処の事せん火計のもの知らぬも昔栗の中多具  
 玉ぞと標客達聚ひ来その美人をの挑り約十夜許ふを竟は来む  
 多のやる多迹不遺せ歌あり物の端不寫着るを知るも立寄見まわ  
 世小霞めうたの草のむろ濡る夜をまよとあけ入皆笑憐しく

甚厭多人の身とあし七恚形も所行をあらわん惜かると語絶さ  
 徒も話柄の傲せしも遮莫世の佳奇談好事家流の作設け人を吐き  
 多も六馬言多のよ方僅這妖血をく知り那浪速津も美人の二十四  
 孔一孔を換へ情態を賣り言の這信のめりめ就めも掘出東西嗚呼廉  
 ちかか廉けり。とを船虫推林止めよ喃々祿達空口利く鄭前をか塞げぬそ  
 燈戸が塩焼辛き世の方金の東西の時價を外く短着鏡の中へ入まへ  
 客の馮ゆも然しもうらかなのそていそ風味を知る人も徒空賞の褒む  
 安さのぞ多入多の送代は誘多尚用口をたるかといひの腕も帳八の袖を  
 まま俱小駁く錫右衛門細筆の係り一友鳥を資けく雲時切擇あを鏡  
 両声の身と脱ると前へ引く鏡頭巾の片髪して袖を拵放り袂舎張燈揮  
 滅して點き還る素見客卒罷下子泣らんその子の母も俟らん急き先

立の地蔵の玉の錫右門閻魔の坊と帳八の隨地獄小怖氣は煩悩醒て菩  
提心南無阿弥陀仏と念ぶ。御堂造小拜ても真如の月ハ出ぬ甲夜磨来  
熟言路を空やくいそ宛り。船虫本意をいふ要時其方と目送り。噫樹の夕  
翁们が年中も苦むぞ空口惜き。罰観面灯を喪ひ。周路を辿る鈍まう。是  
か来ぬ。実の成る客且焼着く。俟んと獨言の彼此と塩木拾ひ。燃残る火を吹  
起も浦風の寒さを凌ぐ程もぬ野寺の鐘の音響く。夜半を二更おそく登時  
船虫の今宵も既深初なる所阿定の多錢の合と華さ末薄情さ然る由  
野良夫が今宵も何首もな夜を白日とせ世渡りを知らぬ。這里へ寄着ぬ。外増花  
わりの欲然とぬ路小障り。留やま。秋の小心り。俟不樂や。こい  
苦した胸小之。塩木の薄煙立秋とす。滅くゆ。空吹。風小雲響く。二十日の月ハ  
出ぬ。浩処小言向。一個の旅客。宿投後。いそや。肩小二箇の

行裏と前と後へも風。走り過んとせ。程は船虫や。立迎く。や。喃要時寄る  
ぬ。唄の裏包と披留。旅客駭く。た。た。た。理不盡。何のぞ。夜半の濱邊  
憚りも。殊小女子の單身。旅客を。留る宿引る。然らぬ。船虫  
うち笑ひ。疎函。宜か。恥く。奴家が。良人の。武家の。退糧人。這近  
御。橋居。絶。立。朝。夕。の。煙。細。身。の。病。着。臥。一。稔。あ。ま。り。竟。世。去。  
ゆり。迹。残。老。姑。三。稔。以。來。壁。疾。目。亦。是。り。一。藥。の。價。術。多。  
親。隱。宵。毎。小。這。塩。濱。小。ま。か。情。慾。を。賣。親。の。與。憐。敗。心。や。喃。白。説。を。  
うち。所。旅。客。の。隈。ち。ひ。月。光。よ。小。寢。小。趣。わ。色。三。香。三。憎。も。木。曾。有。の。  
夜。の。花。然。も。此。小。の。價。也。身。を。儘。せ。ん。の。當。音。散。せ。玉。の。山。入。り。の。空。不。還。小。似。  
う。と。尋。思。を。弄。ん。亮。介。と。笑。く。原。來。稀。る。孝。行。實。義。剛。才。の。情。由。を。買。て。  
い。ま。情。も。慈。悲。も。知。ぬ。夷。狄。の。い。ま。假。寝。の。臥。簾。何。処。を。と。問。船。虫。笑。い。げ。



此男又何等の故不甲夜も這頭へ寄も来む世渡種を外めく俺身空骨折  
 たる心長刺と薄情さよと呷語かきく窘むを堀内所の微笑を吐り多る今宵俺  
 遅く来ぬも亦所以あり。這月の好鳥の係む才は五百六百の仙錢の拵拵も酒も  
 飲の隨お喫まむいを野鷄でも撃捉く。酒菜おせせと尋思すのけか午より這  
 鐵炮を引提え廣緒と水糺が折多くと獲のめわらむ空日消て腹立さふ  
 かさ酒肆の上寄りて腰ま着る錢を限り飲も喫ひもせ程小夜を初更おりこ  
 せは恠く酒肆を立出く冠の松の頭を走らけ路の傷る。農夫の家お更ありて男女  
 送お罵る吉の上寄りて腰ま着る錢を限り飲も喫ひもせ程小夜を初更おりこ  
 最中おて打ち打も泣の叫びく。四鄰と動を闇宅の打擇其頭の多々切々聚ひ来て  
 打と柱を和解とも妻も夫も酔うけん林承るのさ敵ぬゆゆ云云と罵り狂  
 する争ひ果しあがり。介程不俺もあう。今這諷劇の折小拵も何もまかされの

せむけの不獵を補ひがら。好東西も欲得と看廻ら来背門の内多牛欄。這赤牛  
 一頭あり。全身肥脂澤と。這赤といふもわらむ。と珍大牛を六間でも多る。這赤牛  
 と牽おき賣轉さ圓金十枚の得易かて然て馳て這牛を竊と背門を走て  
 此と一家見る奴們へ罵る声おれをきく。足响もゆづりけむ皆執逆上せ折おきバ  
 後々まも知事ありけん甲夜闇を路程之憚りもく逐走らて這里まかへ  
 来け折衷中の月の影を便の遠小全おの窮難情由を知らぬ人あり。趕  
 通り多事急之原來も術を行損ぬ。恠の難義お及ひけん。とて精しく此も  
 猶豫せむ牛の追隊の用心お火索を附る鐵炮の。寛緒を留り。這  
 火砲は去歳の夏。北越お在り。折夜敷の留守の準備もく童子箇子の  
 遮顔せむ久く藏措る。今宵の之信と役お立ぬ。又那善面心平と多の奴は五十子  
 頭の放免る。素より好人あり。走敷殺すとも尸骸を聚さ。後安ん似れ。



他のところを這方の機密を觀着する人ありしをせん然に翌より生活を更て這里  
 へおぬもの。そ左にま右のものを俺の通宵這牛を遠く千任へ牽らせり。售りて  
 快かりませ。其の那戸駱を海流流して後小そとつとも。倘牛主が趕蒐來亦  
 復讐の難義及人要時ありともその牛と推隱をせよとせ西下おろを屬  
 せと。詞せりく其き小生を船虫聞き笑げぬ。是れおろ好牛へ什麼何処へ隱  
 せと。向の俱お彼此と省り顧る磯邊お塩焼のの高米屋あり。夜へ鎖して成る人  
 り。是是究竟と媪内にお立ちて鎖を操用け船虫ももつ。牛を高米屋へ牽  
 入をけり。浩処小六尺棒を引提て這方へ來る者あり。媪内遙くお人おくる。他へ必  
 牛の主が趕蒐來つるおわんごん俺へ權且躲ひて遣過り。那戸駱を流さんん  
 身へ其頭小るとも。氣色お悟らとせ。おろおろの扇魔堂の昔へおかく躲を  
 けり。程のおわんごん一個の農戸年歲四十許あるべし。圓の色お赤黒くと熟せる東を

重なり如く身材の最高も。港お建る橋お似たり。昔當麻の強力士蹴速らものひ  
 つた面魂の逞けお小娘お小堪。圓なる眼光を津く右と省り。左を顧り來  
 り。船虫お声を破けり。喃支問ん濱立人と女郎お世上の噂おせえり。十字街おアを  
 おり。這方僅赤牛と逐走らう。這里を過り。ゆめを。何地お界を認むと。同  
 へ船虫頭を掉く。否然る人おをさうた去向の路の違ひを人快々外を未だの多と  
 へども去む持する棒を杖お衝き立沈吟して。おろおろおぬのえか。咱們お麻生お隠を免  
 冠松の頭多農戸鬼四郎と。おのの俺お向のいと赤け。六村人們お渾名を搭し。こ  
 赤鬼四郎と喚做し。家虫半來養狎し。驛欄牛一頭あり。地方お稀を逸  
 物多。六村人們お亦件の牛お俺名を搭し。赤鬼四郎と喚做し。とも久くおぬ然ら  
 地方で人鬼との会則俺事おく。又牛鬼との会。俺牛と知らぬのを。信る名物  
 ら。七耕耘のうへ。おろおろ車を掛るも荷を駈ても尋常お牛二三頭の播きお

倍々俺與よもろと大々まもろもろま憑よの限かりのわらむけせ二十日正月あち。人も  
 俺わのまろく皆遊あぶを上目あとまろふろ。牛うの骨こを休あし七し咱わら夫婦あの日の暮あるまろく  
 酒さうら喫あつ樂あ盡あく不圖あせ一口説あのめあ下あり。毆あハ罵ある送あの醉あ狂あるあぞ四鄰あを騷あ  
 考ある瘁あの紛あを不あ盗見あが背門あより牛うと牽あかけん緯鎮あり七俺牛鬼あのわらまろく  
 稍知あり七して趕あ鬼あ本あのまろく勿論あ這里あまろく路あまろく人々あ小同試あ小あ甲夜  
 周あり七しより多あ炬あの點あさろ牛うと牽あく一個あの男あの慌あげろ小司馬あ濱あのあめあれあ見え  
 きあこののヨあかりける小甲夜あより這里あもろ和女郎あの刀あ金あといあ又胡論あてあ詰あをあ恥あ虫  
 冷笑あひあく。そあ宜あまろとあまろ。猫あ伏鼠あであろあろあ目あ小掛あるあもあろあろあ最大あきある牛うの  
 牽あまろく這頭あへ来あさんあ詐ある目外あへある死あ司馬あといあ六廣あかろ小這里あのあ濱あで  
 へあさんや上中下あと幾町あの長あき浦曲あを彼此あとあろあも涉獵あらあであろあの牛うの必這里あ  
 来あるあのあ夢あでもあんあまあのあ奴家あの牛うの張あ番あ人あの央あきあるあのあを鈍あきあとあ

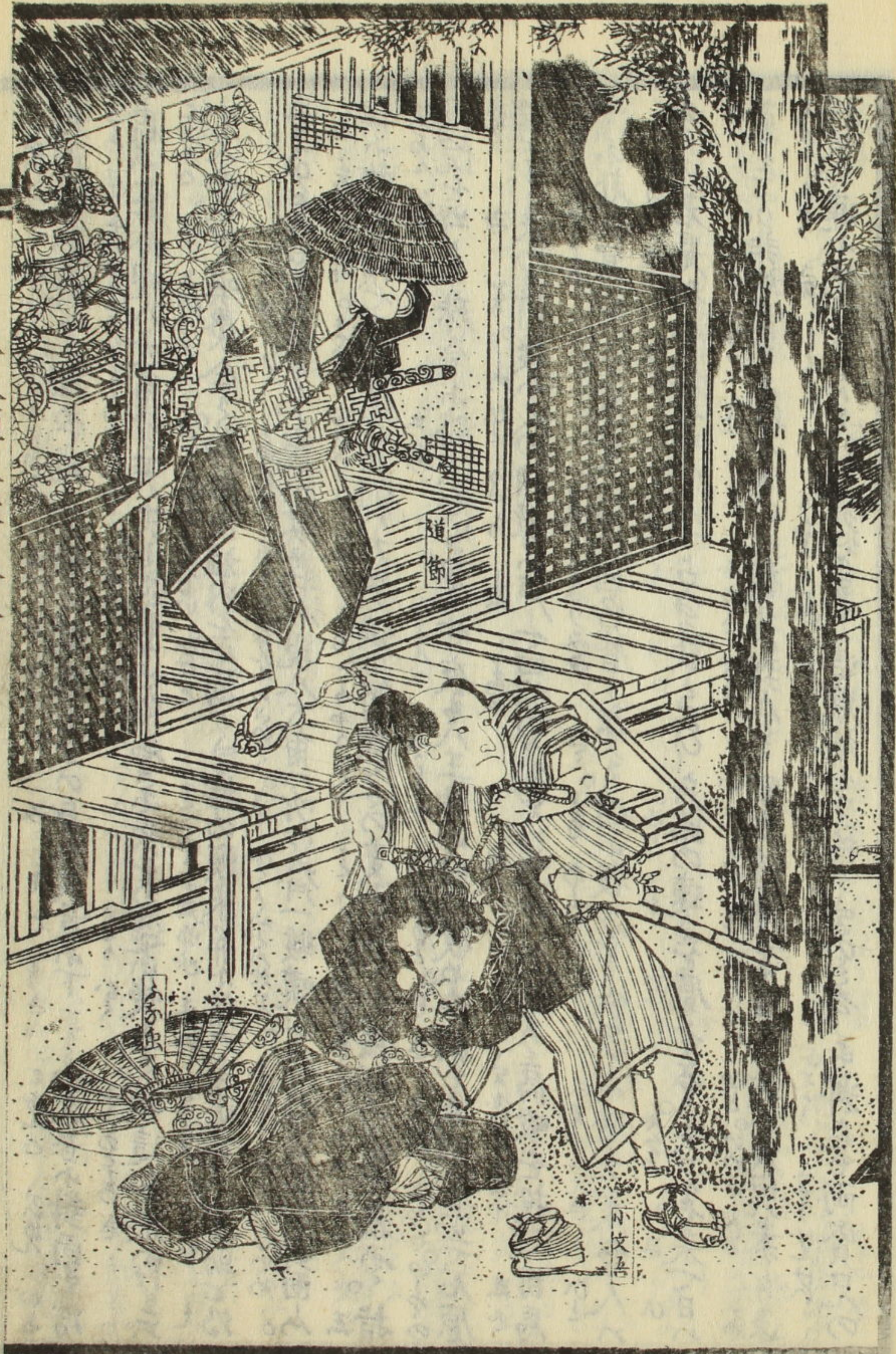
よあと口あろくあ。窘あらあまあ鬼四郎あの腹あも立あをあ舌あろあ鳴あり七し佳あいあろあ六あ樹あもあろあ。みあ  
 又外あを涉あ獵あまあ。蓋あみあかりあとあさあきあ。帰あまあんあ程あ小那牛鬼あ六這年あ来あ听あもあ熱  
 なる王あ人の声あを知ありけん高あ泉屋あの内あよりあろあろあ。忽あ地あ高あく叫あと鳴あ。声あ不あ駭あく鬼四郎  
 其方あを佐あとあんあかあまあ俱あ不あ驚あく船虫あの折あすあかりあとあ乳あを胸あく裏あく物あを鎮あめあるあ。  
 急あ鎮あの牛鬼あ六兩あ之度あ鳴あく声あの疑あみあるあまあとあおあひあ勇あむ鬼四郎あ他あら  
 正あし俺牛あ之那首あ小隠あと措あまあろあ。悍あ々あもあ欺あきある這術あ妻あ奴あの耦あ賊あきあん先  
 牛鬼あとあ平あ来あく。虚實あを舐あさんあ覚あ期あをせあとあ敦團あ猛あく高泉屋あの戸あ口あへ寄あるあを  
 船虫あ推あ禁あく漫あ多あくあとあまあ他あの這頭あの浦人あが塩木あと馳あまある牛うをあ夜あの那  
 菰屋あ小敷あ茶あぎあくあの司馬あの牛うのあまあろあろあの牛うのあ鳴あるあのあといあせあもあのあ鬼あ  
 四郎あの怒あまる声あをあろあ立あく。這賊あ婦あ奴あが大胆あ多あ。這期あああ及びあてあまあ云あと偽あるとあも  
 詐あろ听あんあ妨あげあまあとあ暴あ多あ小推あるあを振断あ突倒あく。再あ找あむ高泉屋あの板戸あを推

開んとせし程、後、响く鐵炮、小撃、まゝ仰、反る鬼四郎、血烟、立て、死、せり。既、小  
 撃、小、響、内、へ、閻魔堂、の、頭、より、響、の、破、れ、を、見、知、り、て、脱、走、か、つ、り、又、鬼、四、郎、と  
 撃、小、響、の、鐵、炮、引、提、を、穿、き、身、を、起、せ、船、中、の、沙、を、う、ち、拂、ひ、く。  
 却、も、今、宵、の、折、の、夕、さ、に、お、ん、が、那、放、免、小、謀、ら、ま、る、を、悟、ら、せ、し、行、損、の、起、程、  
 ら、は、咱、們、の、め、せ、し、赤、牛、の、鳴、ら、ず、故、小、響、發、覺、ま、ま、る、復、た、る、危、勢、ひ、多、し、小、這  
 鐵、炮、の、微、り、せ、何、を、の、り、二、度、の、出、立、地、の、讓、り、今、宵、の、拵、は、是、を、多、く、小、  
 而、個、の、戸、敷、を、海、へ、流、し、牛、を、千、任、牽、り、も、ん、お、ん、が、宿、所、へ、還、り、お、ん、が、船、中、  
 領、ま、ま、那、畜、生、を、鳴、せ、も、わ、甘、く、哄、く、い、き、ん、と、お、ん、が、の、を、声、立、く、已、が、所、在、と、知  
 せ、故、小、鬼、四、郎、と、響、の、撃、ま、ま、る、鳴、ま、雉、子、も、撃、ま、ま、る、求、獵、ま、ま、る、春、の、野、の  
 此、の、濱、邊、も、妻、亦、小、浮、ま、ま、る、係、る、好、鳥、の、今、の、お、ん、が、料、り、か、つ、り、や、夜、深、く、  
 小、響、の、と、先、の、戸、敷、を、棄、棄、ま、ま、る、と、迷、小、潛、り、相、譚、折、り、遙、小、お、ん、が、小、張、燈、高、懸、の

か、下、り、ま、ま、浦、邊、を、這、方、々、ま、ま、る、の、あり、唇、の、ど、明、か、け、る、月、を、便、り、お、ん、が、よ、り、小、腰、小  
 西、刀、を、佩、き、ま、ま、る、旅、の、武、士、ま、ま、る、頭、巾、目、管、小、細、小、多、行、裏、を、駈、搭、す、登、時、船  
 中、へ、遠、く、響、内、が、袂、を、引、く、又、他、の、好、鳥、も、ん、袂、快、立、迎、ま、ま、る、素、引、く、お、ん、が、戸、敷、を、  
 隠、り、お、ん、が、と、お、ん、が、響、内、の、お、ん、が、四、下、の、あり、ける、破、古、を、お、ん、が、合、と、鬼、四、郎、と、善、惡、平、の  
 亡、殿、小、三、救、ら、れ、破、れ、又、鐵、炮、を、引、提、し、その、お、ん、が、再、閻、魔、堂、の、檐、下、へ、退、き、伏、躲  
 ま、ま、る、響、の、穴、を、覗、ひ、け、お、ん、が、小、件、の、武、士、連、の、お、ん、が、夜、の、濱、邊、へ、立、り、人、の、と、知、り  
 り、も、ま、ま、る、走、り、過、ん、と、せ、程、小、船、中、へ、立、迎、ま、ま、る、や、小、響、要、時、寄、ら、せ、ま、ま、る、の、袖、を、援  
 留、ま、ま、る、武、士、の、驚、き、お、ん、が、怪、や、休、へ、甚、麼、ま、ま、る、の、と、問、小、船、中、へ、微、笑、ま、ま、る、  
 親、の、與、小、情、を、商、小、娼、妓、小、侍、り、お、ん、が、声、耳、小、覺、知、り、お、ん、が、武、士、へ、引、提、小、張、燈、を、  
 推、抗、し、倍、と、看、ま、ま、る、お、ん、が、汝、へ、船、中、へ、小、文、吾、ま、ま、る、を、知、ま、ま、る、と、名、生、口、も、果、て、在、る、を、り、て  
 搔、合、る、頭、巾、小、堂、ま、ま、る、相、貌、威、風、今、ま、ま、る、小、紛、ま、ま、る、も、お、ん、が、小、船、中、へ、吐、息、ま、ま、る、を、り、て

駭怕おどろままと逃にげんんとと小文吾透こぶんごとうここ張燈ちやうとうをを撞つ遣や捨すけけ猿臂ざるひをを伸のべべ項上けうじやう抗かええ  
 ひひ上じやう引ひ寄きせせ小脇こわき小婦こふ動うせせ怒おこれれ堪たへへ声こゑ高たか多た舩ふね虫むし汝なハハ越こ路ろ小こ俺おれとと刺さんんと  
 走はりり小こそのその音ね成なれれどど七しち庚申かうしん小因こいんとと更さら小大川おほおほ廿に廿に介けをを欺あまま資しをを得えて  
 宿所しゆくじよ送おくりり還かへりりそのその夜よ又また酒さけ顛かぶ二に們んがが廿に廿に介け小敷こしきをを折やれれ汝なをを知しりりてて媼内  
 とと依よりり支し黨とうとと俱いれれ逃にげ亡じやうううけけりりもも生拘せいこの小こ嘯せう囉ら六ろく穴けつ八はち招ま道ちやう也やそのその明あ旦たん  
 知しるるといいもも往い方はう分ぶん明めいももまままま送おく憾がんんのの小こ這こ里りでで遭あひひとと天てんのの冥めい罰ばつ拵しやう拵しやう也やも  
 今い番ばん脱だつここ觀くわん念ねんせせとと罵のの詈のち大だい刀たうのの緒しゆをを解とけけ出いるる而而もも背せへへ探たん拵しやう拵しやう也や細  
 んんとと程ほど小こ扇せん魔ま堂だうのの檐えん下げ小敷こしきとと媼内おんないハハ這こ為ゐ体たい小こ敷しきけけもも此こもも騷さわをを件けんのの武  
 士し名な告こるる小こ直ちよくとと小文吾こぶんごをを知しりりてて祖そ較かくとと潛せん歩ぽをを下げ壇だん小登ことうりり尻しつをを握にぎりり持もち  
 一いつつ鐵てつ炮ぱう合が直ちよくとと小文吾こぶんごをを知しりりてて祖そ較かくとと潛せん歩ぽをを下げ壇だん小登ことうりり尻しつをを握にぎりり持もち  
 籠かごりり一いつつ個このの武ぶ士しのの朱しゆ韃たのの兩らう刀たう苛かりり目め官くわんをを戴たいくく編へん笠さをを脱だつぎぎ前ぜんをを窺のぞくく

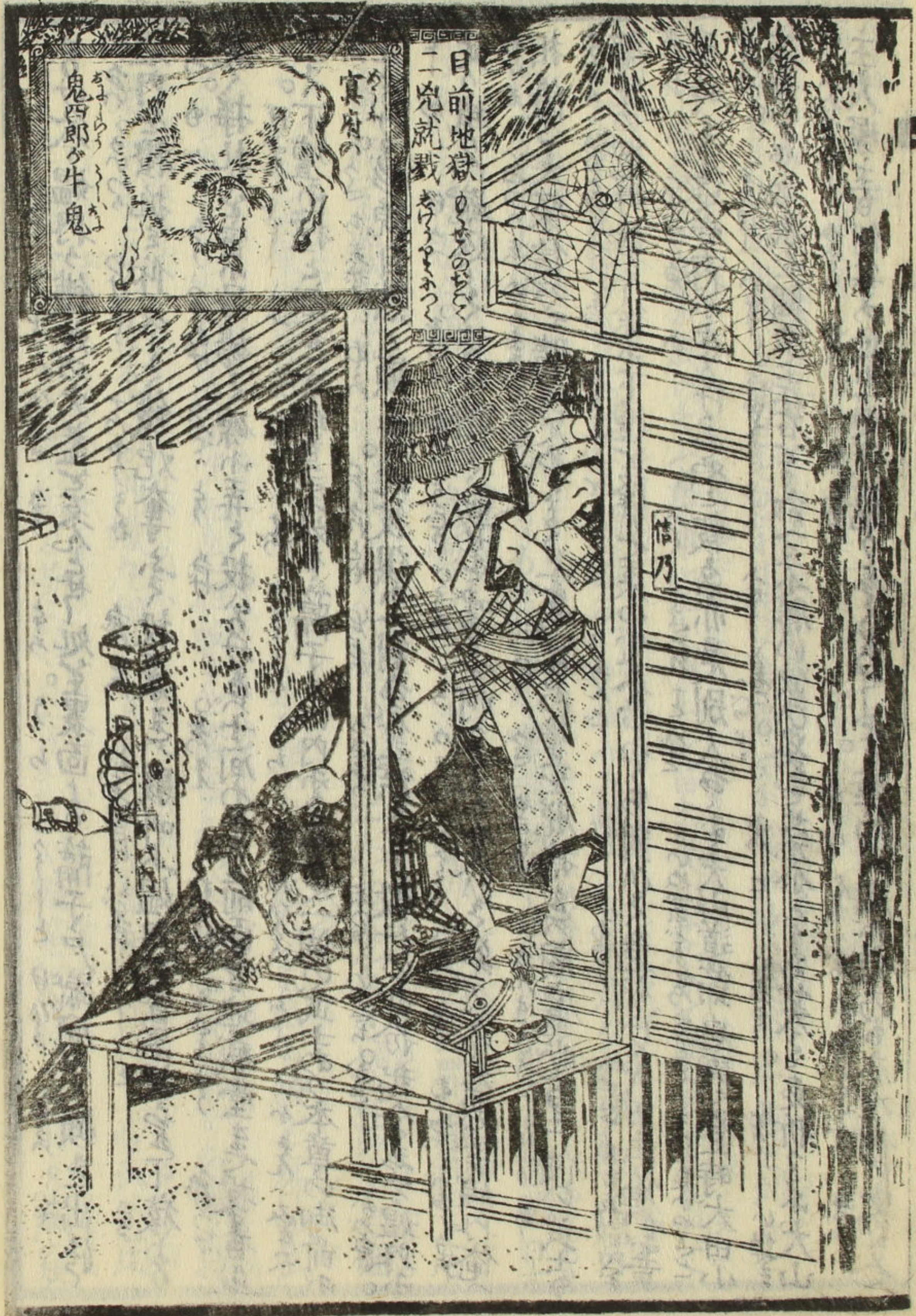
ううけけ今いま媼内おんないがが鐵てつ炮ぱうのの火か蓋さいとと反はんととせせ丸まるをを裏うら面めよりより隔か子し戸こ蹴け用ようをを頭あたまをを出いせせ  
 媼内おんないをを搔か抓とみみ仰おほけけとと鐵てつ炮ぱう奪だつをを投なげげ棄すてて駭おど叫おどぶぶ媼内おんないハハ就しゆ鳥ちやう不ふ捉とららせせ下げ猿ざるより  
 脆もろくく拵しやう拵しやうとと留る吊り揚あげとと礫れきをを弄あそそびび投なげげりり十じゆ間かんのの前まへ面めんをを地ぢ藏ざう堂だうまま投なげげるる  
 走はりり下げ壇だん小控こくうとと倒たふささるる鄰りん音ね小外せうがいをを隔か子し戸このの内うちのの亦また一いつつ個このの武ぶ士しのの本ほん尊そんのの脚あし前まへ  
 立たちち上じやうりり形かたち貌ぼう自じ然ぜんとと頭あたまをを此こ彼か俱いれれ一いつつ對たいするる笠かさ深ふかくく微ゐ行ぎやうのの打うち拵しやう拵しやう也や媼内おんないハハ  
 走はりり掛かりり蹴け返かへりり背せをを踏ふみみ動うせせをを嘯せうとと呵かととううちち笑わらひひ絶たええ久くはは惡あく僕ぼく媼内おんないハハ俺おれ  
 相あ識しるる大だい塚づか信しん乃の之の暗くらとと定さだめめととうう小こ笠かさとと告つげげ脱だつ捨すけけ小扇せうせん魔ま堂だう一いつつ個このの武ぶ士しのの  
 編へん笠さのの細こ解かい捨すてて徐じゆ小下壇せうげだんとと降くだりりてて来きりり小文吾こぶんごがが對たいひひくく危あげげけけ大田おほの生せい俺おれハハ貴  
 昏くら時ときよりより這こ堂だう内うちのの在ありりけるるをを報はつつるる亦また是こ別べつ人にんをを毛け大だい山さん道だう節せつ忠ちゆう與よ之の登とう時とき大田おほの小  
 文吾こぶんごがが舩ふね虫むしをを細こめめ左ひだり右みぎとと見みかかるる不ふ勝しょうのの秋あきひひもも甚お亮らうととううちち笑わらひひ折やれれりり小大田  
 主ぬし大だい塚づか主ぬし何なに等とうのの故ゆゑ通と夜よ籠かごりりままとと拵しやう向むか小間こま信しん乃の亦また准じゆん備びのの索さくとと



八代傳八景卷八下

十二

文政堂藏



八代傳八景卷八下

文政堂藏

かゝる。いしくい。あせり。その身も其首も下す。小文吾も對面を浩  
媼内をを弄々と細めて地上に礮と蹴落し。その身も其首も下す。小文吾も對面を浩  
處の莊介現八大角の三天士。小文吾が歩のまゝも遠く後と。稍這処来りけり。  
小文吾やと喚聚合々却船虫媼内を生拘り。輝の顛末并小信乃と道節の資助を以  
たるのまゝも。箇様々々と説示。其莊介現八大角の所々一駭嘆と。信乃道節對面  
俱小秋ひと演て又の事。某們的犬田と俱小箇様々々の哀れあり。大法師の迹を慕々。指  
月院をゆり。殊さふ路次をいそぐ。昨夜を八王寺の宿を扱。今朝も未明に立。石原  
驛まゝ来る。折後小人の相譚。声して四谷のさへ益命。矢口より高嶽を扱。司馬  
濱小赴。宜かんと。いひけ。俺們四名皆々。俱小後方より分り。小迹より来る人。  
さう。若是神の示。十字占る。秋と。路の遠きを厭ふ。矢口を来て。日  
暮さ。非如夜半。及か。い。德北不到んと。剛才這浦まゝ来る程。犬田の素。速  
行。連小先。走り。か。い。怨。累。這賊婦を生拘り。る。と。料。も。而。賢。兄。の。

資助より七媼内の銃向を脱き。石原驛より。前兆。虚か。と。い。ま。寔。不。愛  
と。い。ふ。と。俱。祝。七。已。さ。り。け。り。小。文。吾。然。と。う。ち。合。合。大。俺。們。が。這。濱。邊。来。り。右。小  
如。大。塚。大。山。賢。兄。連。の。這。果。在。り。い。の。奇。向。小。の。義。を。向。ひ。か。と。い。ふ。と。い。ふ。  
暇。さ。り。何。等。の。故。事。と。向。道。節。声。を。低。め。て。其。疑。ひ。の。説。該。之。其。大。塚。と。俱。約  
束。の。事。と。這。里。を。人。を。僕。と。久。い。と。秘。密。の。事。を。後。小。を。扱。ま。り。め。れ。り。端。的。と。  
忽。諸。小。ま。る。に。這。個。牝。牡。の。賊。之。這。奴。們。が。人。を。殺。せ。り。大。塚。も。窺。視。け。り。の。崖。裏。と。諸。君  
子。の。教。知。り。ぬ。と。い。ふ。信。乃。の。領。き。大。田。大。川。大。飼。大。村。四。位。の。弟。兄。听。見。各。々。這。賊。婦。の  
欺。さ。り。の。事。も。然。然。と。其。の。毒。意。の。趣。を。詳。多。説。く。い。ま。知。る。所。は。船。虫。去。感。の。夏。の。の  
良。入。酒。顛。二。們。が。犬。川。生。小。擊。と。折。支。黨。の。兇。賊。媼。内。と。共。侶。小。越。後。の。隱。定。を。逃。亡。さ。り。  
其。の。輝。の。趣。は。曩。の。大。飼。大。村。生。の。大。法。師。受。り。と。い。ふ。比。の。消。息。也。某。們。も。之。を。知。り。  
恁。而。船。虫。媼。内。へ。遠。く。這。地。小。脱。を。来。て。夫。婦。小。做。り。て。西。心。支。を。言。と。も。其。の。趣。を。箇。様。々。々。

船中十字街妓の客を誘き、救へる金と奪ふ。今宵ハ  
 故免善悪平と云ふもの。その段を見頭とて、輝の難義及び折媼内を竊  
 指し、牛と牽つかみ来て、鐵炮と善悪平を戦ひ、救ふ。と詞せし、説平ハ又媼内を  
 指し、強次與麻生を冠松の頭を鬼四郎と農戸の驛、糶牛と糶路と牽り、  
 這裏来り、折那鬼四郎が輝鬼来り、船中が欺きて、いせ、程小高屋の内、隠  
 牛がその王の声を知り、けん地鳴り、その狩も亦發管とて、復え、  
 媼内ハ這闇魔堂の頭小殿と又鐵炮と鬼四郎と撃つ。某の堂内ハその  
 為体を、闇鏡と怒り、堪走り、捕捕んと、折大田生来り、夏、  
 某と救ふ小文吾齒と切り、這船中ハ、強次與麻生の妻、  
 某と害見とあるも、二度及び、類稀多賊婦、  
 是て這奴ハ、血賊の妻、赤岩と妖怪の後、妻、大村生夫婦を、  
 某と害見とあるも、二度及び、類稀多賊婦、  
 是て這奴ハ、血賊の妻、赤岩と妖怪の後、妻、大村生夫婦を、

刺通りて貞女と事。う。と。此社の眼と睨りて、去年ハ、咱們を欺り、庚申堂ハ、  
 宅へ送り、ける。報ひ虫酒頭ニ、餘の小賊、  
 本意、  
 勇む、  
 ひ、  
 好、  
 婦、  
 大、  
 請、  
 亦、

毒悪類ヲかたねと怕とありの所以ゆゑの憐あはれむとも猶なほや飲無慙うむげんの癖者せいのにけり。と責せむ  
る信乃のぶの推禁おしこめと。這期このご中ちゆう及び及び議論ぎろんの要よう多た。媼内おんないの原はら由よして主しゆの淡雪たんせつ春四郎はるしやうの  
薄うすを肩かたに盤纏ばんぜんと奪うばふ。逃亡たいぼうする昔惡きやくあくのり。信乃のぶの罪つみ船虫ふねむしと勝少かつしやうの免めんの推並おしな  
ぎ八割やちご斬切きりきと悪あくを懲おとす。今いま猶なほ豫よす。道節だうせつ領りやうをそ勿論もちろんのこと多た。  
畜生ちくせうのこと劣せうりる。這奴このやつら們らを主しゆ君子くんしのこと不ふ堪かんて可か惜しやく。死し刃やいばと汚けがれ牛ぎゆう刀やいばとと鶏けいを割きり如ごとく  
多おほく牛うしらい媼内おんないが竊かすみ一ひと牛うしの那首なうしのことわ。他たの與よのこと這奴このやつら們らの亦また是こゝ主しゆの仇あやを牛うしの突つ  
き受うの隨まふ苦くるゆ誅戮しゆりやくせん箇様かうやう々々々々と諭さとせ。小文吾現こぶんごげん八は壯さう介けい多た下げ。上うへ心こゝろ  
の刀やいば附つき小こ刀やいば子こと。船虫ふねむしと媼内おんないの衣きぬの背條せぢやうと破やぶれ。信乃のぶの亦また鳥とりのこと小文吾こぶんごと  
共とも侶りよの墨すみ筆ひしの筆ひしして這賊このやく夫婦ふうふの背せへ罪つみの箇條かうぢやうとと約やく多た不ふ寫しや着ちやく。魔ま堂だうの  
檐えん前ぜん多た二株ふたきの杉すぎへ推並おしなと旋毛せんもう纏まとふ。登時そのと道節だうせつの大角だいかくを誘さそひ。稟屋りやうゑの隠かく  
置おき。牛うしと這方このやつらを牽ひき。介程けいぢやうの船虫ふねむしへ允ゆるす。是こゝ罪過つみとがを多たく小文吾こぶんご大角だいかく們らと

怨うらむのこと狂くるのこと既すで死し刑けいのこと甚しき。哀果あひる只媼内おんないをこと又また媼内おんないの  
道節だうせつのこと大おほく投なり。時胸ときむねを撲うき。骨ほねを折やぶり。声こゑ立たち。一言半句いちごんぱんくものことのこと面おもて色いろ主しゆのこと  
多たく才さい息いきを吐つき。道節だうせつのこと左ひだり見み右みぎ見みて五ご人の弟あに兄あに多たく。這船虫このふねむし媼内おんないの尋常じんじやうの  
罪つみ人ひとのこと惡あく古ふる今いま稀まれ多たく。身み生なる。地獄ぢやくの墮おち。今いま這この閻王えんわう殿前てんぜんの牛うしの角かくの  
劈やぶる。前まへ面おもて地ぢ藏ざうのことわ。も。救すくふ。大おほ辟はくの誅断しゆたんをことのこと信乃のぶの牛うしの  
身み邊へ找たづね。寄より。御ご留りゆう。這牛このうしの主しゆと使つかふ。鬼おに四郎しやうが云いふ。説せつり。之これ初はつと  
知しる。ぬ。お。逸物いっぶつを六村むつむら人ひと們らが主しゆの名なを搭たかし。牛鬼うしおにと喚こゑ做せけ。名な詮せん自性じじやう  
牛頭馬頭ぶとうばとう冥府みやうふの獄卒ごくその擬なま。け。自然しぜんの妙契めうけつを前生ぜんじやうのことのこと這この義ぎを多たく主しゆの  
仇あや多たく。賊夫ぞくふ賊婦ぞくふを劈やぶり。け。心こゝろを。叮てい嚙せつ。小文吾こぶんご現げん八はも生なのこと後のちのこと多たく。牛うしの  
のこと死しを破やぶり。拍はくと。拍はくと。牛鬼うしおにのことのこと媼内おんないと船虫ふねむしを仇あやと觀み入いる。程ほどのことのこと牛うしの  
這このも長ながく。尖とがる。角かくのことのこと殿てん下げのこと肩かた尖とがる。牛鬼うしおにのこと怒いかれ。牛うしの勢いきひ。地獄ぢやくの阿あ青しやうを目前まへの



受く苦しむ船虫楯内眼血走る顔の色赤く多う又蒼く多う腹の波うの大叫喚申るに  
數番おてやる息絶へ有繫る勇む大士も這光景を肅然と多をも目を合けり。

第九十一回 鈴森小毛野縁連を撃つ  
谷山小道節定正を射る

登時小文吾の信乃道節們が對ひて某小千谷の旅宿を去る去敷の四月の二十村を  
闘牛の折暴牛のり。その夜小角力磯九郎の船虫酒類不殺意小今宵亦這赤牛が  
船虫楯内を劈き王方然を復せし。那磯九郎の與りも恥を雪るもの似たり。天綱疎れ漏  
る。無心殺かそのはひ。道節點頭其頭の餘談もまかを緊要を密議の  
約束する快船の今來の比を牛と樹下小繫留せ一圓這里を退く下と答る詞の  
訖ら折る波濤を推断す快船一艘這塩濱小漕着て暗拂の哨子と吹鳴る道節信  
乃あるる走り水際赴く程小船前不找む社仗の是則別人を落點餘之七

有種之道節信乃の對ひに御示さるもの如く某穂北の走かた七隈一味の衆人小  
とと告相促し速に準備を致す這義と知らるるは其の快船小乗来りて  
目今看到致す。又衆人五六艘の太平船の執業を推續する來り該之は道節飲ひて  
その速多隊配之其の大塚と俱に黄昏より這里小専來船と俟程小料む小文吾  
莊小現八大角の四大士が甲斐の石木より來り小遭おれ有徳いづく便より。那人々對面  
あるる進退を議まじし。信乃の有種主僕と高師們を旁ひけり。余程小莊小  
現八小文吾大角の牛と樹下小繫留する連立來りけり。信乃道節の這四大士小  
有種が來りけり。と恁々と教知り齊一船小乗る。古岡駁の文漕せけり。登時小莊小  
小文吾現八大角と共侶小有種小初對面して。大法師の迹を慕ふ。甲斐より這里  
志來也折道節信乃の資を得る強盜船虫楯内を誅戮する趣を筒様々を教  
知る。有種耳を傾けり。手廻りて去りけり。且も道節の小文吾と自餘の三大士小

うち對ひ声と潜りて其が大塚と共小塩濱多堂内から籠籠と在りける。其の  
 必まけん言脩も初より詳小物も其某け小料も湯嶋の天神の社頭と大塚毛野の  
 邂逅より他の縁で使小似も額髪を剃落。坐敷師物四郎と假名之虎黒子を  
 除く薬と磨齒砂を賣るとヨク人と聚合とす。傍小人のあると名告る小唄を  
 志かども大坂多と猪せ人相手相と論破りてその才学を試し小必も倍々辯論  
 奇才某們及ぶ所小わむ既小と甘木と相と大望あるとも亮查せも亦奇と交ひ  
 便りちかりけり果敢多其首と立別とす。かると分ちて潜り取返してそが頭を皮  
 林の中伏願とす。その谷子と現の小便官の密議とす。その故の箇様々々  
 百堀郷二愁愁訴の奥小越後より来て湯嶋と毛野小掌相を同ひる。そのまふり次  
 團太が淫婦奸夫小誣りして小貝の獄舎小敷きとす。小輝の趣木天葉多の短刀の  
 ろの嗚呼善士又小伎倆と詳小知りて折蟹目前の社参のゆふ龍愛の猴の

毛野が食へるまのせむ功とて次團太を救と請け小輝立地小允とす。其の  
 二六蟹目前の使者次通小相俱と越後から去る。恣河鯉守如小鶴小毛野の武  
 藝と試と翌の朝小縁連を敷きと謀りて。その縁連の三輪以来定正小仕重  
 用せり。今番相摸の北條家へ使者と七赴る。その奸險の行状とす。折具小多  
 毛野の教ひ意外小空。那縁連の年来索る人の仇多とす。その身の素生  
 實名と守如小告知とす。翌を契りて遠く立別とす。其も聞見。隨小説示小  
 小文吾莊小自餘の黨いも。遇見現八大角有種小推並と毛野が孝感天助と  
 得る面と認め小冤家の所在と詳小知るとす。其も捕る便宜と値ひけり。其一感と  
 其の中小文吾と莊小那次團太の横難と毛野が微妙と救ひも復たるとす。其  
 けり。登時道節又とす。既小諸君小知るとす。如く。小相谷定正の俺昔君の仇多と  
 其裏小白井の效外とて敷果とと使小還と敵小謀りて。その輝成りも今小ま

去る去る歳の玖月より穂北の旅宿をたふして五十子の城内を覗き便りつる越  
 海で復讐の密議を大塚落船の示す是と非を問試み大塚の謀を告して  
 竊に諫らして然らば已むるは密々那城の頭近つた幾番の虚実を知  
 まる便りかどの便りぞりいけ料の守如の密議をせり竊に大塚が  
 復讐の輝の趣五十子の城内へせよ定正必刃勢と知て主野を撃んとせむ  
 下。その虚来乘り短兵急那城を攻破らむ唾と定正の首を捕まると易かりん  
 異小豊嶋の殘兵の落船生れ從之穂北の民か多りの無慮九十餘名あり這精  
 兵三千名を分ち大塚の援ふ做志。その餘の備隊も從へ便寫の処伏候と一舉に  
 城を攻破らんと尋思を為穂北の宿の前路折り上野の原の頭を大塚生か有  
 種子と俱来ぬ小遭ひ久輝と身と生口準備の與か有種と穂北の宿所か下  
 遣。某の大塚と共に司馬濱に赴きて落船生れ約束する佛堂の頭も冬より寒池

初春の浦寂し且黄昏の疾潮風の堪へけは笠屋宗脱某末の闇魔堂閉籠り天  
 塚の地藏堂に籠りて躬方の船を俵し料も賊婦船虫悪僕媪内を誅戮す大田大川  
 大飼大村四個の同盟石木より來る小遭ひ錦の上の花を添う幸ひと一五一十と説  
 示共齊一勇む小文吾共介現八の大角も俱小賛嘆の声を絶断する隊配の速さを  
 稱する有種と房のけ。當下信乃の壯介の四大士うち對ひて今大山がひの如く某の初  
 より復讐の議を諾む縦大山の舊君の忠なりとも大敵の當りて戦及候とある里  
 見殿の對しあつて不義多し。と云へて大山の所せ七輝を及及び其某今と我の與の  
 性命を惜み只大山の力を易と扇谷定正と撃て大父三成が嘉吉の怨を復せんべと  
 某ののう然るるに。那大阪の助大刀を。胤智萬夫の勇ありともを家縁連同  
 行の勇士三四名伴當通を百餘名及ぶと。一辟月の力の救彈さや有任先  
 某の毛野を援けん五十子攻を先急と。以難く胸中區々けり不幸なま石木

よ。四君子未會表のひけは、緯十二分より、宜は賀志、賀志下と祝せ、小文吾  
合笑く、その義は心安かき、大匠石濱、小雙言敵馬加常武一家と慶金本、本夏あり。  
縁連、入敷多し、も、撃果、果を疑ひ、あ、い、小作、推林、不、然、か、い、大田、生、那、犬  
匠、石、濱、也、許、多、の、仇、を、殺、殫、せ、一、家、見、る、夜、撃、也、寃、家、の、主、僕、醉、臥、其、皆、辟  
易、七、撃、も、多、る、ん、又、翌、の、進、退、の、折、と、あ、る、も、縁、連、に、相、伴、の、勇、士、あり、七、伴、當、り、百  
餘、名、の、及、が、ら、の、曠、野、の、戦、の、多、く、人、突、流、智、非、如、縁、連、と、敵、を、捕、る、と、の、全、勝、の、人、最、難  
也、然、る、と、單、身、より、朝、人、暴、虎、馮、河、似、と、も、撃、て、克、ぬ、父、の、仇、解、さ、る、由、の、か、い、  
有、徳、和、殿、と、目、末、の、毛、野、と、接、け、柱、る、敵、を、投、拂、也、大、匠、必、死、地、に、入、り、生、地、に、出、る、  
路、多、く、ん、欲、這、義、と、あ、り、か、い、論、せ、小、文、吾、有、理、と、心、を、多、傷、を、か、く、現、八、大、角、威、嘆  
多、く、大、川、生、の、高、論、は、是、兵、法、の、貴、所、敵、と、知、り、已、と、知、り、後、の、勝、負、を、定、け、や、と、の、か、を、道  
節、諾、も、大、川、大、田、也、也、多、く、大、匠、の、接、助、の、足、ら、大、飼、大、村、兩、勇、士、の、那、隊、向、ひ、か、い、

今番縁連と共侶相撲、赴く副使、龍門、鯛、既、濟、越、杉、駱、二、一、峯、鯉、崎、惡、四、郎  
猛、虎、并、小、大、石、憲、聖、の、家、臣、仁、田、山、晋、五、正、使、縁、連、と、俱、五、名、皆、是、武、藝、の、の、  
就、中、猛、虎、の、二、十、人、の、薙、力、也、武、藝、尋、常、を、ね、も、心、術、奸、佞、也、縁、連、が、腹、心、と、憑、  
大、田、大、川、大、飼、大、村、の、四、君、子、の、二、十、名、の、精、兵、を、従、へ、使、身、の、処、伏、躲、を、百、五、大、匠、縁、連、  
撃、て、搦、も、と、る、も、隊、兵、を、魚、鱗、小、備、へ、後、と、断、前、と、遮、り、鯉、崎、龍、門、越、杉、を、撃、  
捕、ら、那、縁、連、へ、忽、地、羽、翼、と、失、く、首、と、大、匠、授、く、下、這、義、六、什、生、と、長、く、在、公、の、  
沈、吟、七、大、山、生、の、軍、略、の、宜、也、の、圖、小、當、る、い、も、流、智、も、亦、覚、む、是、蓋、世、の、勇、士、か  
る、親、の、讎、敵、を、撃、ぬ、及、び、許、す、の、助、大、刀、也、也、那、人、の、柄、も、も、縁、連、と、擊、  
捕、る、と、も、還、く、俺、を、恨、む、今、も、その、説、を、足、ん、大、飼、大、村、二、勇、士、六、船、方、の、精  
兵、を、従、へ、躲、ま、く、勝、負、を、現、ひ、也、其、大、田、と、共、那、副、使、を、殺、崩、七、毛、野、の、進

退をせむせ見恁でも敵の退を輝の難義及及び参の折を大飼も大村生の隊兵と  
找也戦と接け更然るとは毛野の恨をも輝十分の中十多と危を参る。議をもと  
信乃の感嘆とその計議の極め妙之流智の面識の多し大田大川二君子の成就中  
大田生の石濱より七好も深かり進退の左も右も大川生と商量を又入大山が五十子  
攻の要の時宜の憑るべき今這里の不定なり軍議は是も多し。今道節小  
文吾現八大角有種們も俱不心々亦復餘談及及びけり。介程の道節の有種が  
伴當二名も要時機密を具し示し七汝達ハ五十子の城の頭も潜のた。縁連們が城  
より参りて見定め恁の処も快走りかて大川大田も報知ぬ這他のの箇様々  
との伴當們のあつて船と浦曲小寄りの高嶺より登りて五十子と投いせたり且七  
有種も準備の割籠を披ひ六六士も夜飯を差め盃を薦め参る。船と司馬浦へ  
漕ぎ程も現八と大角の莊介小文吾と迭代の石末も存り程の信乃道節も報

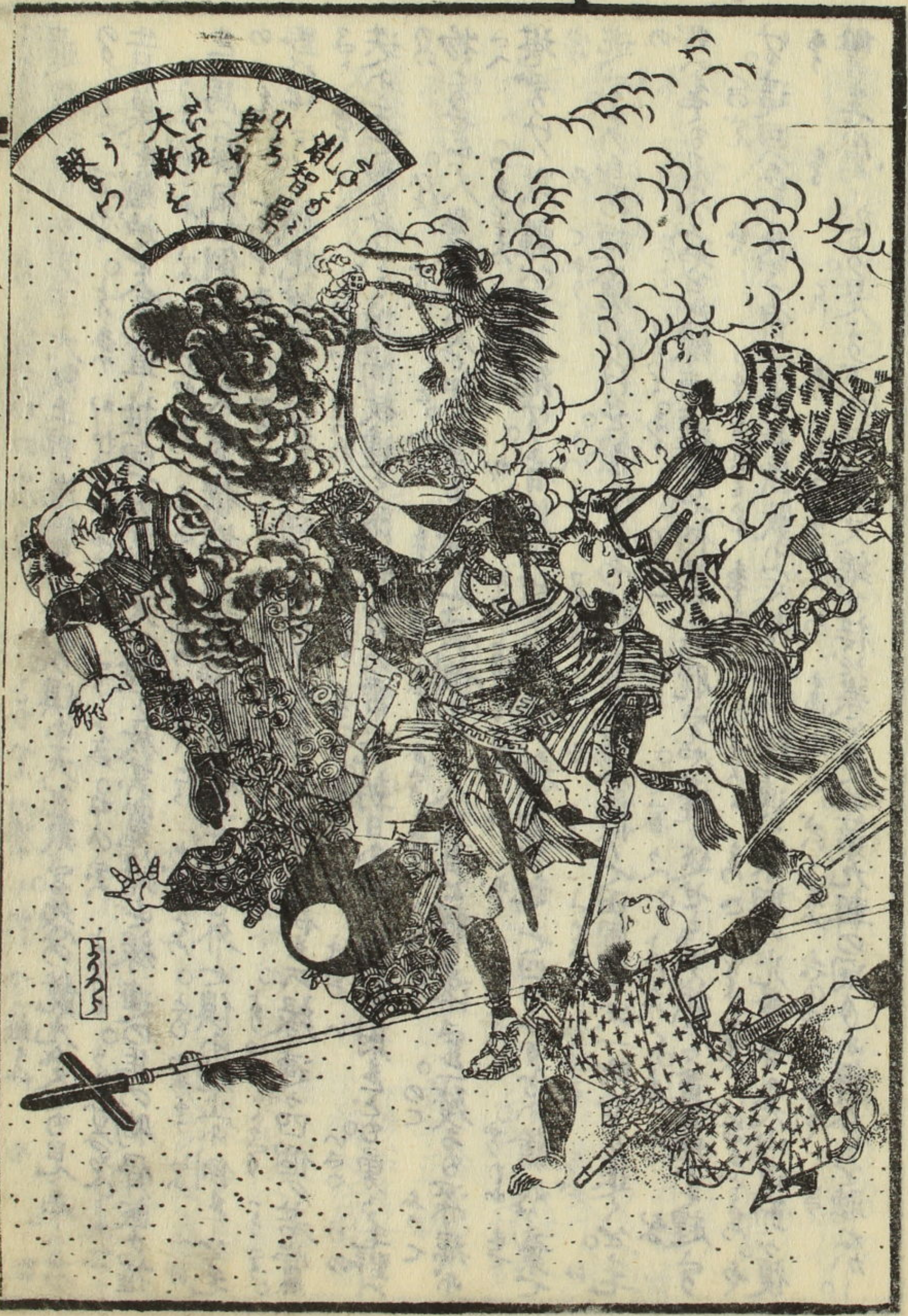
知七指月の道場の後住の入院の下旬多し。其某們の間の養生山へ赴けり  
条件の時日高嶺ひ才の中一日も七後住の老僧入院を以て、大法師も其們のかつ  
来ぬと俟及及び且徳北も退ん石末も立去ぬ。其某們の知らぬも只何と  
多し心をなせれより路草も咲ぬ。那寺も立ちり輝恁々と参り。船と石末を  
辞り去りて道徳の迹も慕ひ。夜を日小継て参る。道徳も今も徳北の宿も留りて  
を依と向き。訝る信乃道節も俱も眉根をうも願申めて参る。昨日こそ  
けまも、大法師も来ぬ。其某們も現八の四六士沈吟と参る  
道徳の去向を急ぎ結城へ赴けり。其故の箇様々々と里見殿の奉為も今番結城の  
古戦場の廬を掃びて一百日の大念佛を修行して大炊殿。季基を初と大塚三成井直  
秀。這他の當日陣歿の士五十の喜提を吊んとし。其某們も報知も信乃道節も有種們  
も感をもと大も参り。其某們も肆月の祥月忌も必那里も赴きてその法蓮も會して皆満心

あり。程有種。催促あり。船出さる。船方の雑兵九十餘名。大平駝五六艘。
 あり。千任河より来り。道節と。高嶮の浦曲。船と。
 這里にて隊配を定む。船中身甲腕甲。前鎗。眉尖刀。
 大。擇念。身と。準備。
 種。對ひて和殿。船。留りて。俺黨の本意。遂て。
 之。逆の約束。推辞。奉る。
 戦ひの外。願。同伴。
 わり。妻子。死。他人。許。
 船。更。難。義。友。是。
 船。成。功。
 竟。その意。從ひけり。

從之。密々。陸。登りて。高嶮。茂林。の中。衆。合。
 利。雑兵。亦。五。六。名。間。諜。
 竊。那。里。遣。けり。話。分。兩。頭。是。
 牛。盗。見。と。見。司。馬。の。之。
 多。腐。腐。皆。頭。ま。
 牛。鬼。の。樹。下。の。
 史。寫。著。る。數。行。の。文。
 年。來。の。積。惡。今。宵。放。免。善。惡。平。と。鬼。四。郎。
 い。く。驚。を。奇。と。先。鬼。四。郎。と。善。惡。平。の。亡。
 各。所。の。深。痕。多。け。
 盜。夫。婦。は。這。牛。の。突。殺。

知事を命じて却つて近き村長やを頼りて地方の民と兵侶の詰早五十子の  
 城門へ訴けり。考ふる所の日城外小吏のひと沙汰及び第三日に至り有司詮議し大船虫  
 と塩内が首級を濱邊に斬取けり。焔速近小少を捕はる人咸駭嘆せざるを強志大婦と  
 細めてその積悪を懲々と背へ寫しぬ。八那御堂を闇魔王の靈靈嚇すをあらわして參詣  
 羣集ありぬ。介後數度の戦ひの堂宇頽破及び地蔵の闇魔の木像も甘木甲  
 寺の遷すまで這里のあつたなりとて又鬼四郎が赤牛の強次血夫婦を突殺する大功あり  
 のを重く鬼四郎が妻と見子いづまもく鍾愛せしとし著の一周忌念ふに菩提の與ふ  
 と香華院をせけり。是より七那牛の耕作車力の艱苦もわづか幾歳か寺の奉養を  
 選佛場と終りしとて是等以後の事約めて其の寫しを休題再説明す。正月廿一日  
 這朝五十子の城内の竜山免太夫縁連初め姓名はが相模の北條家へ密議の使節を  
 奉りて未明より首途を縁連の目打扮の萌葱威の身甲小磨着の腕申襦着し上

衣の黒蛇皮絹の小袖小搭脱の衣二より籠被で黃羅紗の陣羽織小純子の野袴を穿  
 領し黄金表装の両刀と瑠璃小跨ぎと桃花馬の太逞は小雲珠鞍置を來る左下  
 従ふ四個の若黨雜兵奴隸三十餘名前小立後小跟の鎗柳管長柄の傘鎧櫃杖雨衣  
 次第と亂を隨従し次使副使電門既濟越杉一本鰐崎猛虎仁田山晋五小立  
 志俱小劣る打扮各々馬と相せる這伴當の許りて小荷駝を牽り長櫃と昇りの  
 遙後方小従て一町有餘陸續し。既わ縁連の稍品草さう過之朝日初日分る比  
 鈴森の波打際と運途とと徐行し程前高の茂林の樹蔭より顯る一個の壯士是則別  
 人ぞ大阪毛野流智之胤智這日の打扮白布の四天の下細鏝の細衣と被て重葺早の立  
 舉の襦着小白布の顛統と髪を後振振糸糸一尺八寸の白大刀小比首と帶副て小鏡引提  
 去向の方小立寒方之天地小御音高聲高きと竜山免太夫本姓の笠山氏逸東太縁  
 連且駐生往る實正六年の冬十一月杉門の里の這方と汝が為小敷れる粟飯原首層度



天傳ノ陣景ノ下

九三  
○及溪堂主表



八ノ作ノ車巻ノ下

○及溪堂主表



遺腹の第一の男子大阪毛野胤智あわの。俱天を戴る然の銃九受ても見と。名  
の。果ては鐵炮を會直し推向て火甚てて控と放せ。電錯と縁連の馬の胸骨駁を摧  
之馬ハ屏風を倒さ如く矢庭ハ撲地と轉輾。王の懐に鎧の外ハ俱ハ地上ハ倒と。毛  
野ハ得ず。と鐵炮放棄大刀を真額ハ技藝ヲ七飛が似く走掛。縁連ハ四個の若黨  
送ハ王を敷せと推隔技連。防戦ハ刀の電光朝日ハ映。七眼を射。とも勇。毛野ハ  
物ともせ。人ハ境ハ入。如く當。當。儘。七破。倒。二。人。ハ首を敷。落。之。殘。る。も。深。瘡。ハ  
堪。が。け。跌。輾。び。て。息。絶。け。有。恸。一。程。縁。連。ハ。稍。身。を。起。七。四。下。と。り。な。る。鎗。奴。ハ。棄。て  
逃。る。も。身。の。短。鎗。の。け。を。檢。會。の。の。扱。之。足。場。を。探。り。七。田。圃。の。一。町。を。り。退。く。と。毛  
野。ハ。も。の。の。の。と。と。縁。連。逃。る。と。何。首。も。脱。さ。な。ら。蓬。返。せ。と。喚。掛。々。々。墓。地。を。趕。す  
け。這。回。り。多。長。や。る。れ。と。毎。卷。紙。數。不。定。限。の。六。縁。連。ハ。未。期。の。光。景。并。ハ。大。山。道。節。が。復  
讒。言。を。爲。す。は。り。是。より。下。の。話。説。ハ。又。編。を。接。ぎ。卷。を。更。め。第。九。輯。の。開。の。解。分。を。聽。ぬ。か。り。

因ハ云大村大角の名ハ礼儀。第六輯ハ見え。第七輯ハ礼儀ハ作  
り。古ハ字訓の。第七輯ハ則清と憲清儀清ハ作。時致と時示ハ作。成氏を重氏ハ  
作。例の。ハ深。各。未。足。は。の。実。ハ。暗。記。ハ。失。を。本。輯。ハ。改。正。七。又。礼。儀。ハ  
作。り。第。七。輯。上。下。二。帙。ハ。刊。行。の。書。肆。先。例。ハ。背。と。作。者。の。校。訂。を。受。命。製。本。發  
行。せ。り。の。就。中。誤。寫。多。り。又。只。七。輯。の。も。わ。れ。毎。輯。書。肆。ハ。發。販。を。急。ぎ。て。校。訂  
夜。を。も。て。目。接。せ。ば。不。見。送。る。誤。寫。折。脱。を。の。り。之。其。具。眼。の。君子。正。統。  
又。云。信。乃。莊。介。道。節。現。ハ。小。文。吾。大。角。毛。野。這。七。大。吉。列。傳。ハ。既。ハ。其。の。趣。盡。し。獨。大。江。親。衛  
の。義。勇。を。創。す。由。り。第。四。輯。ハ。其。時。四。歲。の。童。童。ハ。第。九。輯。ハ。大。江。の。為。ハ  
立。脚。色。顯。々。又。七。列。女。皇。節。離。衣。其。其。大。吉。列。傳。命。多。縁。由。及。八。大。吉。身。の。瘧。の  
形。壯。丹。花。ハ。似。さ。り。第。九。輯。ハ。至。七。分。解。せ。ん。全。書。の。團。圓。近。は。り。看。官。結。局。の。目。之。俟。け。り。

○著作堂手集南總里見八犬傳第八輯下快画者筆工刷人目次  
出像畫工

柳川重信

做書 五六七八上 五附録八下 第五卷 第六卷 第七卷 第八卷上 第八卷下

剞 剞第七卷 剞第八卷上 剞第八卷下

開卷驚奇俠客傳第二集 第二集五冊 當癸巳春より賣出

近世說美少年録第四輯 第二集五冊 共小精刊美奈製本

松浦佐用媛石魂録 前編三冊 後編七冊 共全十卷

美濃舊衣八丈綺談 戲曲小わらわらか物才三々を奇妙に

南總里見八犬傳第九輯 本輯老一部全壁と多々一と接續

○家傳神女湯 諸病の妙薬 一包代百銅

○精制不奇應丸 大包代金銀茶 中包代一匁五ト

○熊膽里丸 子 論あいつあつ九せ 一包代五ト

○婦人分産の妙薬 産後諸病の妙薬 一包代五匁

○製茶本家神田明神下同朋町東横町 滝澤氏

○古今名類 仙女香 黒油美玄香 江戸京橋南二丁目東側角 坂本氏

天保四年癸巳春正月吉日發行

大坂 心齋橋筋 河内屋長兵衛

書行 同所 河内屋茂兵衛

江戸 本所松阪町 平屋五郎

傳馬町 丁子屋平兵衛板

本所松阪町 傳馬町 丁子屋平兵衛板

本房刊行す所 曲亭翁新著美少年録俠客

傳并八犬傳第八輯共良工之撰と之雕鏤す所

如意すものありは之精細と加之遺憾

既上の目録も且之七輯已上の動も其の遅滞

吹簫をそとをそとを 江戸書林 文溪堂敬白

